

澗江



澁江

—第10号—

目次

澁江第10号発行にあたって……渡辺達好	2
私大に国庫補助の増大を……福井孝治	3
2万同窓生へのお祝い……藤田敬三	3
大阪経済大学学園だより	4
同窓会本部だより	5
名簿編集を新しい組織で	
同窓会支部だより	8
奈良支部が新しく発足	
東京支部・岐阜支部・京都支部・福井支部・徳島支部・山口支部・九州支部・奈良支部・大阪市役所支部・第6回生の集い・第9回生の集い	

体育会クラブの現況と将来

—OB監督・コーチにきく—

大学の改革ということば……荒牧博之	15
ゼミ短信	16

稲原ゼミ・岩井ゼミ・大槻ゼミ・門坂ゼミ・喜田ゼミ・倉辻ゼミ・杉浦ゼミ・平ゼミ・田中ゼミ・竹林ゼミ・玉井ゼミ・玉置ゼミ・中川ゼミ・永野ゼミ・藤谷ゼミ・松原ゼミ・光沢ゼミ	
---	--

中村清次郎先生を偲ぶ 思い出の先生……村上静夫	18
大阪経済大学刊行物案内	20

北から南から—

同窓生短信集

学歌・逍遙歌	27
--------	----

澁江第十号発行にあたって

同窓会理事長 渡辺達好

ようやく夏の休暇も終りを告げ、小学校から大学までいよいよ新学期が初まった。何かしら七月下旬頃から八月末までは会社に出勤するのも通勤路はゆったりとしていたように思っていたが、九月に入ると途端に人々の通行が多くなり、交通の混雑も従来の姿になってきたようだ。親の脛をかじりながら勉学にいそむ頃は実に人生でも一番最良の時期であろう。それが、社会に出るとたちまち一変した形となる。特に今日此頃の社会状況は如何であろうか。

一般社会状況は徐々に不況下の波が押し寄せてきているように思えるが、まだまだ最近の学卒者の就職には左程の深刻さはなく、一般的に学生の頭には安易な気が流れている。しかし世は正に不景気の兆候を如実に現し、憂うるべき事態への波動を行っている。かつては我々が体験した、昭和の初期から日支事変に

至る間の就職難の時代とまでは行かないとも、困難な時代がくるのではないかとさえ想える。成程いま我が国が日常もとめてい生活の諸物資は金さえ投ずれば何でも購求する事が出来るし、一般市場には多くの物資が豊富に存在するといえる。

しかるにその物価たるや朝に夕に相次いで高騰の一途を辿っている。他面これに呼応するがごとく、自然環境は破壊され、いうところの公害化は正に止るところを知らない。おまけに、社会環境というか、人倫道徳もまたこれに輪をかけて廃れつつある。

なかんずく一番大きい不安は、一昨年の暮から起こりつつある、狂乱物価の行方である。公共料金はいうに及ばず、物の値段の付くものといえ、先にも述べたように夕に上ったかと思えば朝にもまた上るといふ悪性の物価上昇である。政府自身も

この狂乱物価の抑制に躍起となって総需要抑制とやらの政策や金融政策を講じているようではあるが、その効果も実績も出てこない。このままに推移するとせば一般家庭経済は困窮の状態に陥り、極めて危険な社会状況となるかも知れない。

会社経営に携る我々もまた本年やむなく実施せざるを得なかった賃金大巾アップの結果は、実にその前途に暗い影を投げかけている。今秋から来春にかけて行わんとする総評の労働運動の推移如何によつては、企業の存立もあつたものではない誠にもって寒心に堪えない状態である。

私の社でも漸く六月末運賃値上げの機会は得たものの、ベースアップのために生じた支出増に対してはまったく焼石に水といったところ、これが今日の交通事業者の宿命かと歎きたくもなる。一昨年の石油ショック以来諸般の事業がピンチを招いているのはご承知の通りである。それが今日の諸般の公共料金のアップとなり一般物価にもはね返っているのはあるが、ともあれ苦難はなお今後にも続いて行くであろう。

此の悪条件下の経済環境の中で同窓生各位には日夜奮闘されていることと思ひます。最近の学園の状況につきまして、学長先生や理事長先生のご挨拶にもございますが、真に大学としても重大なる局面にあることは否めません。しかしこれはひとり大阪経大のみではなく、日本の私大の全部が背負っている問題であります。今後の私学経営の問題もまた国家の文教政策の方途如何にまたねばならぬかも知れません。がしかし長年に亘つて培はれてきた大阪経済大学の灯は永久に消すわけにはまいりません、今後とも同窓生各位の一層のご支援を私からもお願いする次第であります。

例年発行致しております四十九年度の澁江が、ここに出来上り会員各位のお手許にお届けすることの出来たことを非常に嬉しく思います。今回の発行に当り玉稿を戴きました同窓生の各位に衷心からお礼を申し上げますとともに、本編集に絶大なお力を戴きました、山中編集部長初め部員各位並に本部各役員のお力添えに心から感謝と敬意を表します。終りに同窓生各位の御多幸を祈念してやみません。(9月7日記)

私大に国庫補助の増大を

学長 福井孝治

長年大学理事長としてわれらの学園発展のため尽瘁して来られた田岡氏が健康の都合で今春辞任せられるに至つたので、その後任というよりは実質的には事務取扱として当面の本学経営の衝にあたり、最適後任者の出現まで暫く微力を尽すこととなりましたので、学園の先輩御一同の御指導と御支援を心からお願ひする次第であります。

ところで学園の昨今は四十年代中頃程のこととはなれないにしても往年の空気とは尚程遠いものがあるのみならず、学費引上げ後の財政情況も狂乱インフレに翻弄せられ、決して安定を取戻したとはいえない現状で、各界に御活躍、本学の名声昂揚に御尽力の皆様には誠に申訳ないことと思つております。しかしこの数年の内憂外患で本学教職員、学生一同が大いに鍊えられたことは事実であり、今や全員一丸となつて前進の基礎堅めに努力中

単に有機的生命を維持するということが人生にとって意義あることではないけれど、政治、宗教、学問、芸術等に従事するためにも人は先ず飲食し着衣し居住しなければならぬ。この意味で生命の維持は基本的なことである。同じようなことは法人としての大学にも当てはまる。大学は決して営利のための機関ではないけれど、教育機関としてそれ自身の生命を維持発展せしめて行くためには物質的な基盤を欠くことができない。

ケインズの伝記を読むと、彼がケンブリッジのキングス・カレッジの財務担当者として、その実務的才能を発揮しカレッジの財産を幾倍にもしたことが語られている。しかし、古い伝統と固有の財産を持つ多くのカレッジから成り立つケンブリッジとかオックス

フォードといった大学でさえ、今日ではケインズの時代と異り多額の補助を国庫に仰ぎざるをえなくなつてゐる。

わが国の学生総数の八割は私立大学の学生であるといわれているが、經常収支で赤字を出していない大学はほとんど無いであろう。アメリカでは既に財政上の理由で閉鎖の止むなきに至つた大学が可成り出ているようであるが、わが国の私立大学の財政も正に危機的な状態にある。最近文部省が計画している伝えられる經常費の半額国庫負担ももちろん、もっと多に越したことはないが、でも結構である。早急に実現を切望する。そして幾分たりともマスプロ教育の弊を除きたい。それは学生の質を低下せしめるばかりでなく、教官から大切な研究時間を奪つてしまふ。

2万同窓生へのお願い

理事長 藤田敬三

あり、気鋭の陣容整備とともに今後の難局克服に立ち上ろうとしております。

もちろん御承知の如く石油ショック以後の日本の停滞と動揺は単なる一国的な経済的後退だけの問題ではなく、資本主義経済の世界的ひづみの大きな露呈の一環であり、甘い見透しは総て禁物と思われまふ。しかしそれだけケインズ以後の画期的な役割が大学の英知に期待されているわけだともいえましよう。

われわれは今や学内外の目前の諸困難に堪え乍ら、大学の持つ時代の使命に出来る可く大きな志を以て地道な研究と正しい教育の在方のために協力邁進したいと決意して居ります。母校を愛する皆様のいつに交らぬ御支援と御鞭撻を切に御願ひしてやまない次第であります。

澁江十号発刊を祝ひ諸兄の御健勝を祈りつつ一言御挨拶を申し上げます。

11月3日同窓会総会 於大阪経済大学キャンパス 11時30分から立食パーティー

学生数 昭和49年5月1日現在()は女子

	1年	2年	3年	4年	計
第1経済	749(20)	815(13)	737(6)	1,051(8)	3,352(47)
第1経営	845(23)	892(28)	867(27)	954(11)	3,558(89)
第2経済	143(5)	159(7)	247(4)	312(7)	861(23)
第2経営	228(10)	196(5)	180(3)	224(6)	828(24)
計	1,965(58)	2,062(53)	2,031(40)	2,541(32)	8,599(183)

49年度入学試験志願者状況 ()は女子

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
第1経済	5,492(102)	4,777(88)	1,438(30)	790(21)
第1経営	5,780(137)	4,979(118)	1,480(48)	823(26)
第2経済	497(14)	418(13)	207(6)	127(5)
第2経営	543(15)	458(13)	286(11)	201(8)
計	12,312(268)	10,632(232)	3,411(95)	1,941(60)

定刻、C41号教室では、比企事務局長の開会宣言によって昭和四十八年度同窓会総会が、母校より多数の先生方のご臨席をいただいて開幕された。渡辺達好同窓会理事長の挨拶に始まり、学長福井孝治先生、理事長田岡嘉寿彦先生よりお祝いの言葉をいただいた後、祝電披露、同窓会各支部長よりの報告と雰囲気はいやがうえにも盛り上がり最高潮に達した。そこで、山中良夫(19)ソングリーダーのリードによる学歌、学園

常任理事名簿と分担表

理事長	渡辺 達好 (3)	世良 鎌次 (3)
常任理事	広田 実 (1)	萩原 市郎 (10)
	磯野 育 (3)	桑津 昇 (11)
総務部長	玉岡 浩 (12)	小松真佐江 (14)
〃副部長	谷口 一郎 (22)	酒井 弘光 (23)
	水納 敏也 (25)	前田 悦子 (13)
会計部長	陰下 嘉典 (16)	稲福 善男 (33)
〃副部長	平尾 啓男 (28)	三木 薫 (4)
	大西 健介 (35)	
編集部長	山中 良夫 (19)	
〃副部長	松本 義和 (18)	
	旭 克之 (27)	
事務局長	比企 重 (7)	
監事	山上 善彦 (2)	
	中村美智子 (13)	

昭和48年度同窓会総会

昭和48年11月3日(祭) 於 母校キャンパス

同窓会本部だより 名簿編集を新しい組織で

今年と同窓会本部にとっては役員改選の年、多少の入れ替りはあったが、新役員のもと、決意も新たに今後二年の運営にあたることになった。なお、来年は名簿の発行年でもある。会員各位のご協力を心からお願いたします。

古くから「十一月三日には雨が降らない」といわれていることが正に証明され、そして昨年の悪天候が悪夢であるかのように、これ以上の秋日和はないといっても過言でないほどの晴天に恵まれた文化の日に、大阪経済大学大樟祭のアーチをくぐり三々五々来校して来た同窓生諸君は、同窓に学んだ者の共通感にひたりながら、あちらに一団、こちらに一グループと思ひ出話に花が咲いている。「友あり遠方より来たる、また楽しからずや」の謠そのものである。

満足を懐きながら名残り尽きながら来年の再会を約しつつ一人、また一人と去ってゆく友、また大樟祭を、経大祭を祝っている学生諸君の中に溶けこんでゆく友……。このようにして昭和四十八年度同窓会総会が閉幕したのは、はや夕暮れの迫ったころであった。

最後に、この紙面をかりご協力いただいた同窓生諸君はもちろんのこと、大学の各部門の職員の方々に心からお礼を申し上げます。

(文責 事務局 比企)

50年度入試要項

1. 学部・学科・定員

1部	経済学部	経済学科	400名
	経営学部	経営学科	400名
2部	経済学部	経済学科	100名
	経営学部	経営学科	100名

2. 試験日・試験地(1・2部共)

学部	試験日	試験地
経済	2月16日(日)	大阪・金沢・名古屋・姫路
経営	2月17日(月)	広島・高松・福岡・鹿児島

3. 試験科目・時間(1・2部共)

学部	教科	科目	配点(計450点)	試験時間
経済学部	英語	英語 B	150	70分
経営学部	国語	現代国語 古典乙1(但し古文のみ)	150	70分
	選択科目(1科目)	倫理・社会、政治・経済 日本史、世界史B、 地理B、商業一般、簿記	150	70分

4. 出願期間・合格発表・入学手続

- ① 出願期間 50年1月21日(火)～2月7日(金) (郵送にかぎる)
- ② 合格発表 2月27日の予定。(学内に掲示した本人に直接通知する)
- ③ 入学手続 3月10日の予定

5. 出願について

- ① 50年度入試要項は、11月10日発行の予定である。
- ② 要項請求先：大阪市東淀川区大隅通2丁目 本学入試事務室 要項請求にはタテ5cmヨコ12cmの用紙に、住所氏名郵便番号を横書きし、代金〒共400円(定額小為替)を同封すること。
- ③ 入学試験要項には経済(1・2部)経営(1・2部)両学部の出願書類が同封してあるので併願する場合でも1通請求すれば足りる。

大阪経済大学学園だより この一年の動き

この一年の大学でのトピックニュースは、多年学校経営にご苦労いただいた田岡理事長が退任され、新しく前学長の藤田敬三教授が就任されたことだろう。人事をはじめ学生数等ご紹介しよう。

学内人事

4月1日
経済学部長(新任) 杉浦 貫一教授
経営学部長(再任) 喜田 義雄教授
教養部長(再任) 田中 健一教授
4月8日
田岡理事長退任に伴い新理事長に藤田敬三教授就任

学内行事

4月10日
昭和49年度学部入学式
4月19日
昭和49年度大学院入学式
4月22日
昭和49年度講義開始
5月8日
田岡三教授就任

今後の予定

9月21日
前期講義終了
9月24日
前期試験開始
5月16日
公認会計士による会計監査
法人監事による監査
2月16日
後期試験終了
2月8日
後期試験開始
2月17日
経済学部(一・二部)入学試験
3月19日
経営学部(一・二部)入学試験
卒業式

「理事会」予算・決算と新役員を選出

◇昭和四十九年六月二十九日(土)午後六時
 ◇ニュー・パレス(新阪急ビル)◇議案

第一号議案 昭和四十八年度決算
 第二号議案 昭和四十九年度予算
 第三号議案 役員改選
 第四号議案 その他
 ◇出席者 五七名
 第一号議案

。昭和四十八年度決算について陰下会計部長より報告。
 特に、昨年度理事会において可決された特別基金の運用方法の経過について平尾会計副部長より報告。

。中村監事より監査報告。
 質疑応答のうえ満場一致にて可決。

第二号議案
 。昭和四十九年度予算について玉岡総務部長より報告。
 特に、繰越金の使途に関連して山中編集部長より昭和五十年発刊予定の同窓会名簿編集に関し「名簿特別編集委員会」(仮称)を設置することについて提案あり。

。質疑応答のうえ満場一致にて可決。
 第三号議案
 比企事務局長より新理事選出経過について報告。
 特に小田山口支部長と逝去に伴い理事(支部長)欠員であった山口支部に新任された串田 一支部長(8)より報告と挨拶あり。
 。常任理事選出に關し比企事務局

長より議長選出について提案。満場一致で磯野(3)理事を議長に指名。ただちに選挙に入り、磯野議長より新常任理事選考委員として

中村源(4)、日南(7)、萩原(10)、前田(13)、小松(14)、酒井(23)、水納(25)の七理事が指名され別室にて慎重審議の結果、選考委員を代表して秋原理事より新常任理事二〇名と三監事を発表。全員拍手でこれを承認。
 引き続き新常任理事で理事長を互選の結果、渡辺理事長を再選。

第四号議案
 。玉岡新常任理事より「名簿特別編集委員会」(仮称)の運営方法について緊急動議。続いて、陰下新常任理事から名簿発刊に關し特別基金の一部立替について関連緊急動議。
 質疑応答の結果、前者は常任理事会に一任、後者は動議承認とすれども満場一致にて可決。
 。姫路支部長より支部費増額について考慮方を常任理事会に要請。

以上で議事をとどこおりなく終了。最後に当日出席の支部長各位より挨拶があり閉会。
 × × × ×
 なお、二カ年間ご苦勞をお願いすることになりました新理事と、当日選出された常任理事およびその分担は別表の通りです。

新しい理事と支部長

- ▷(1)宇野善四郎・内田真二▷(2)中島春雄・松原四郎▷(4)中村 源・森元庸晃▷(5)岸本健蔵・清水忠文・長岡辰生▷(6)伊藤音七郎・川島正作・中島靖夫▷(7)高垣 収・日南為雄▷(8)柴田秀一・大橋秀男・長尾 晃▷(9)武川茂夫・山口久雄・堀江秀二郎▷(10)榊井貞詮・武内美次▷(11)筒井英夫・重里実▷(12)阪上謹之助・百野 操▷(13)山崎和子▷(14)上野満里子・柴田悦子▷(15)黒田 稔・大川良・木下一子▷(16)百瀬昭治・酒井克己▷(17)太田一澄・相馬士朗・西尾良明▷(18)貝塚 茂▷・浜本 泰▷(19)平田五郎・浅井一男▷(20)山村泰造・川野群平・小林郁夫▷(21)神 喜作・畑 勉・奥山正美▷(22)森本真輔・大槻明司▷(23)西本集一・坂口良三▷(24)上野晃司・内田 実・岩田昭二▷(25)村井十三夫・重藤卓三▷(26)辰本博己・田丸寛二・坂井田雄賢▷(27)森泉新一郎・坂元 裕▷(28)鶴谷利一・大久保儀臣▷(29)大門寿郎・紀川賢太郎・長崎和夫▷(30)川上堅士・神田博・大室和弘▷(31)杉浦雄二・寺岡利之・山本昭夫▷(32)村田哲夫・中沢広凱・湯原郁雄▷(33)丹波敏寿▷(34)岡崎竜雄・島口勝治・柏原義盛▷(35)須藤滿征・柏木 弘▷(36)鈴木則男・福長俊之・合田照夫

顧問 藤原光治郎・浅沼玄恵・梅田武文

現支部長一覧表

- ▷東京 服部友一▷東海 加藤正秋▷滋賀 野田邦弘▷京都 木下隆徳▷丹有 梶村文弥▷神戸 田中義一▷姫路 永川仁一△和歌山 松本旬弘▷岡山 大森喜多志▷広島 佐々木一義▷山口 串田 一▷高松 矢野保郎▷徳島 谷 俊一郎▷高知 横田憲介▷九州 荒牧博之▷石川 石地与四太郎▷福井 内田 甫▷富山 重松 尚▷三重 水上敏夫▷西宮 増田憲治▷岐阜 丹羽好輝▷奈良 川島正作▷大阪市役所 村上静夫

昭和48年度収支決算書

自 昭和48年4月1日 ~ 至 昭和49年3月31日

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	決 算 額	予 算 額	科 目	決 算 額	予 算 額
前 期 繰 越	388,621	388,621	総 会 費	711,483	800,000
会 費 収 入	6,672,000	6,800,000	役 員 会 費	856,850	800,000
名 簿 収 入	133,000	150,000	支 部 費	506,100	500,000
利 息 収 入	102,211	30,000	事 務 費	1,810,579	2,100,000
総 会 収 入	161,000	250,000	編 集 費	1,366,162	2,650,000
雑 収 入	2,750	0	学 対 費	673,900	700,000
			慶 弔 費	8,000	20,000
			雑 支 出	105	0
			予 備 費	0	48,621
			次 期 繰 越	1,526,403	-
合 計	7,459,582	7,618,621	合 計	7,459,582	7,618,621

昭和49年度収支予算表

自 昭和49年4月1日 ~ 至 昭和50年3月31日

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	予 算 額	摘 要	科 目	予 算 額	摘 要
前 期 繰 越	1,526,403		総 会 費	800,000	
会 費 収 入	7,500,000		役 員 会 費	800,000	理事会・常任理事 各支部・支 部総会
名 簿 収 入	50,000	名簿代 50部	支 部 費	600,000	理事会・常任理事 各支部・支 部総会
利 息 収 入	100,000	普通預金利息	事 務 費	2,450,000	通信費・支部 援助
総 会 収 入	200,000		編 集 費	2,500,000	濑江・名簿発行 大学祭・クラブ 援助
			学 対 費	850,000	
			慶 弔 費	20,000	
			予 備 費	1,356,403	
合 計	9,376,403		合 計	9,376,403	

昭和49年度母校入試の協力について

昭和四十九年度入学試験実施について学校より同窓会の協力依頼要請を受けたので、二月四日(月)常任理事会を開催し学校側と懇談会を兼ね事情説明を聞くとともに慎重審議の結果、昭和四十六年度以来三年ぶりに協力することに決定した。

なお、この件について学校よりの要請文は別稿の通りである。

拝啓 今年には余寒殊の外厳しい昨今ですが、いよいよご健勝のこととおよろこび申し上げます。

さて、既にご承知いただいていることかと存じますが、昭和四十九年度入学より学費値上げ問題に関連する学生ストライキにより、学年末試験を予定通り実施できず、時間割を一部変更してこの二月四日より八日迄全学あげての厳戒体制で実施することになっております。

このような状況のなかで、来る二月十六・十七の両日入学試験を実施するのはご存じになりました。本学としては万全の体制を整えて臨みたいと存じておりますが、外部からの指導による一部学生の動きに対処するためには何分多くの人手を要し、本学教職員だけでは到底これを確保することができず困惑いたしております。

つきましては、唐突で勝手なお願ひでまことに申し上げかねますが、入学試験当日の監督その他について卒業生のみなさまのご援助をお願いしたいと存じます。

御多忙のところ、恐縮に存じますが事情をご察察いただきまして何分のご協力をたまわりたく、よろしくお願ひ申し上げます。

敬 具
 昭和四十九年二月二日
 学校法人 大阪経済大学
 学 長 福 井 孝 治
 学校法人 大阪経済大学
 理 事 長 田 岡 嘉 寿 彦

二月十六日・十七日の両日、学校側の要請人員をはるかに越える同窓生諸兄姉が母校への愛情を發揮されてご参集をいただき、無事昭和四十九年度入学試験を終了いたしました。また、各地方試験場においても例年のことながら多大のご協力をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

同窓会理事長 渡辺 達好

同窓会支部だより

奈良支部が新しく発足

今年から新しく奈良支部が誕生した。これで支部の数は二十三。年々その動も活発化し、支部総会への出席者の数も増えてきたことは、まことにご同慶のいたり。支部への入会、お問合せは別掲の支部役員のところまで――

東京支部

戦後、東京支部再発足当時（二十七年）五十名の会員も、現在約六百名になっております。特に四十六年卒以降の在京同窓生が急激に増加いたしておりますが、その確認が難航しており申しわけなく思っております。

今後東京で活躍される同窓生も益々増加するものと予想されますので、まず支部会員の移動をいかにして掌握するか、幹事役の十九回牧田氏（都渉外観光部長）と知恵をしばっております。

多少古い話になりましたが、今年一月十七日東京都教育会館にて支部総会を開催し、同窓会諸兄約八十名の出席を得て盛大に行なわれ、学校から出席御予定の浜本教授が己むを得ぬ事情で急に欠席されましたが、本部から御多忙のところ松本義和氏に御上京賜わり、同窓会からの御報告、母校の状況等をお伝え願いました。

当日は一回卒の大先輩松本憲次氏（新光精工社長）がはじめて総会に

京都支部

以来名目のみの支部で、何等活動もなく休眠状態を続けてきましたが、先般機会があり第三十四回卒業の北川征男氏と会い岐阜支部の運営について種々懇談いたし、同氏の非常な熱意をいただき八月四日、市内松屋において再発足への打合せ会を開催いたしました。

京都支部会員の皆さま、平素の御無沙汰をおわび申し上げます。四十八年度支部総会は十一月十日午後六時より、京都岡崎の洛陽荘において開催いたしました。出席者回答は五十名でありましたが、当日の出席は三十七名でありました。学校よりは田岡理事長、里地理事の御出席をいただきました。会が進むにつれ、お酒を通じ終始なごやかに歓談し合いました。年一回の総会ではありますが出席者の中には、この総会を心待ちにしておられる方もあり意義あるものと感じております。

四十九年度は十一月十六日（土）に開く予定をいたしております。多数会員の御出席をお待ち申し上げます。皆さまの御健闘をお祈り申し上げます。

（京都支部長 木下隆徳）

福井支部

福井支部の会員もここ数年急激な増加を見、現在県内の連絡をとれる会員だけで百余名を数えるようになりました。世帯が大きくなるとそれだけに違った苦勞がつきものであるが、いまのところ若手を中心に、自



京都支部総会から

岐阜支部

当支部は誠に残念ながら支部発足

出陣され、錦上花を添えていただきました。また特に今回は十六回―十九回卒の諸兄が多数顔を出され、それぞれ各界の若手幹部として大活躍の方々でもあり、はなやかに話がはずんでおりました。

この総会開催でも何かとお世話になった十六回卒西山昭吾氏（日本パインング社長）が、副業として東京駅に近い八丁堀に「漁火」という、たいへんサービスのいき届いた庶民的料亭（？）を経営しておられます。同窓の方々ぜひお立ち寄りください。ここで東京支部の大体の情報はわかります。

何はともあれ、東京支部も益々はなやかになっております。

なお、三十五回卒の谷川昌市氏（株式会社・ビジネス社長）から、日ごろ御多忙にもかかわらず支部会員名簿の作成、訂正に多大の御協力、御尽力を賜わっております。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

（東京支部長 服部友二）

称第一期黄金時代、第二期黄金時代とそれぞれに覇をとまえ、和氣藹々たるところを見せています。ただ残念なことは、年間数十人のものが母校に入学しているが、在校生との交流が非常に弱く、今後の支部活動として、ぜひ取り組まなければならぬ課題だと考えています。

さて、本年春、福井で夏のマンドリン演奏会の準備を兼ねて支部総会を開きました。経大マンドリンクラブ福井演奏会も今年で三回目を迎え、非常に好評でほとんど定着してきました。しかし、今年には在校生の組織的な応援が得られず、内心非常に不安がありました。

六月十五日には、嶺南小浜の地で支部総会を重ね、二十数名の参加でしたが地元の方々の協力と昭和同窓時代の先輩の方々の参加を得、特に御婦人の会員の参加もあり、非常になごやかな思い出の会合となり、来年はぜひ教員でと話のはずむ一時でした。参加した会員の胸中には「大樟の幹もちあって諸汗にしっかりと植えた融和のシンボル」を刻んだ有意義なものでした。

第六回生の集い

去る七月二十六日（金）道頭堀半田屋に於て、藤原先生、菊田先生、山田先生をお招きし、岡山、名古屋からも参加者があり十五名の同窓生が出席、昭和同窓時代の黒正学長をはじめ諸先生の数々の思い出話に花が咲き、宴会は盛會を極め、時間の経つのも忘れ、我々も学生時代の二十代の若さに戻り、我々もまだまだ若いファイトに燃えている、今後共お互に頑張りが合いますように誓い合い、盛會

- 裏に思い出の街、南や北の青い灯赤い灯に誘われて三々五々散っていきました。（記 中島 靖夫）
- （出席者氏名）
- | | |
|-------|-------|
| 伊藤音七郎 | 大森喜多志 |
| 大西 崇之 | 岡田 佐市 |
| 川島 正作 | 柴田忠五郎 |
| 中川 克己 | 中島 清正 |
| 中島 靖夫 | 中田 光 |
| 中西 勇 | 町井 清 |
| 三好 梯彦 | 山田 文晴 |
| 吉見 巖 | |

なお、連絡先が変更になりましたのでお知らせします。

丹羽 好輝

おりです。

阿波踊り実行委員会

- | | |
|---------|-------|
| 委員長（九回） | 谷 俊一郎 |
| 委員（二二回） | 林 武 |
| 委員（二二回） | 柏原 守男 |
| 委員（二二回） | 田村 昌男 |
| 委員（二二回） | 秋山 貢守 |
| 委員（二二回） | 遠藤 弘幸 |
| 委員（二二回） | 伊藤 博 |
| 委員（二二回） | 阿部 好宣 |
- （徳島支部長 谷俊一郎）

山口支部

山口県支部の総会兼懇親会を、六月二日山口市湯田の防長苑において開きました。参加人員十八名、多少寂しい感じがないでもなかつたんですが、しかし、自己紹介を行い、支部長に串田氏を選任、さらに今後の同窓会の在り方、たとえば県内をブロック別にし、各ブロックごとに幹事を決め、いままでも以上に連絡を密にしてより以上に発展させていこう等、活発な意見の交換をし、あるいは学生時代の思い出、現在の仕事、経済問題等々、油が満タンになるにつれエンジンのほうも次第に全開に近づき、たいへん楽しく、なつかしく、また勉強になり、話の種は尽きず、もう一度学生生活に戻ってみたいような思いにかられたのは、私一人だけではなかつたと思います。

以上、次回開催を遠からずのうちにと約束して閉会した次第です。

（山口支部 上田和男）

○出席者名簿
▽串田 一 下関市▽弘津健吉 下関市▽大田宗之 防府市▽竹中節雄

小野田市▽藤田邦夫 下関市▽友守孝次 小野田市▽中石逸雄 宇部市▽林 康博 山口市▽岩村 実 宇部市▽岡原郷明 下関市▽小林真人 山口市▽高木祐造 防府市▽佐鹿英武 防府市▽池永日出夫 防府市▽福沢照夫 防府市▽中村武久 防府市▽小田経雄 下関市▽上田和男 防府市

九州支部

ことしも九州支部総会は二月に開いた。例年、年の初めになるのだが、これは経大の出張入試が二月に福岡市で行なわれ、経大から教授も来福されるので、タイミングを合わせて支部総会を開いているわけ。



第九回生の集い

昭和四十八年二月十一日(日)、寒さ厳しい中、藤原、浅沼、奥村、寺尾先生のご出席をいただき同窓三十三名参加のもと、箕面スパイガーデンで開催された。なにしろ大部分が三十余年ぶりの再会なので、懐かしさ一しおのものがあられい出話はなかなか尽きなかった。一同記念撮影の後、校歌を合唱、またいつの日かの再会を約して別れを惜しみながら散会した。紙面を拝借して当日祝電をいただいた、福井学長先生、渡辺理事長様に厚くお礼申し上げます。(赤谷太郎 記)

昭和二十年九月卒業となった者が自分等当時としては卒業式にも出席出来ず、卒業証書を疎開先と云うより戦災で焼出され先へ郵送してもらってやっと卒業となった状態です。同窓会は昨年十一月三日の文化の日で天気もよく晩秋の太陽が快く輝いていた。阪急上新庄駅の仮駅で(もとの駅より約五十メートル位大阪寄りにある)下車した。三十年近く経過したためか、まるで勝手かわからない、昔は平家建の古びた瓦葺の住宅がずっと立並んで道路は勿論、舗装はして居らず、両横に防空壕が掘られていたように記憶している。それが現在では、すっかりと舗装して商店街となり、また交差点では信号灯が設置せられて全く昔のおもかげは何処にも見当らない。普通学した記憶を便りに東の方向に進んで行った、だが、唯一の目撃だった、昭和商高当時学校の北側を流れていた巾十米位の当時はきれいな水が、ちよるちよるとしていた川も、すっかり埋立てられてしまつて無くなってしまった。その代りに川の北側と思はれる処を新幹線の高架がそびえ立って時折けたたましい響きとともに列車が通過する。昔は駅から十分間で行けて、途中例の川の縁まで来ると学校の鉄筋建の校舎が見え、あたりは一面田圃で、駈足で走れば始業時間迄に充分間に合ったものだった、それが今では建物に埋まらなうに思はれる。また二十才にならなう若者だった当時と五十才にならなうとしている現在では体力が違ふのは致し方ないことである。やっこの思いで学校へ辿り着いたが

同窓会総会に出席して

福井 真八 第12期生

昔のおもかげを残している処もあれば、全く変わってしまった個所もある。ただ校門の正面にあるまいるセメント造りの直経七、八メートルの池は私の在学当時も今もそのまま少しも変わっていない。その他は多少共感を異にしている部分もあり、昔のおもかげを多少残しているところもあるが旧館はやはり老令になったと思つた。学校の東側は昔グラウンドだった、それが現在では鉄筋数階建の校舎が立ち並び威容を誇っている。その校舎で同窓会が行はれている筈である。受付で卒業期と姓名を申出た。列席したの先輩であり、統一して自分の十二期と云うのも古い部類に入るのだらう、大部分は三十期以降の比較的若い人達によつて占められて居た。懐しかったのは、菊田教授の健在な顔が見えたことである。あの特長のある顔を年をとつておられるもの昔のおもかげそのままである。御元気で何よりと思つた。戦雲急の学徒時代がついに此の間のように思はれたが、あれから既に三十年になる。黒かった丸刈頭が今では長髪で白いものが目立って多くなり、人生も既に過半数を過ぎてしまつて斜陽となった現在、人の生涯とは長いようで反面短いものだなあとつくづく考えさせられた。出席した同期の者は至つて僅少だったが、皆一様に初老の年配に達しておつた。同期の出席者の少いのは残念だったが、本日学校の同窓会に来て、今昔の感に堪えなかつた。卒業の諸兄機を作つて一度母校を訪れて下さい。人生にとって有意義なことと考える次第であります。

とき 十一月十七日(日)十一時
ところ 奈良市登大路
奈良県文化会館
連絡先

あり、いまま少し受験者数をふやしたいと提案したが、経大の日常のPR?活動など、もっと積極的であつていいのではなからうか。

小生、支部総会で支部長の歴任は十年を経たので、辞任、交代を申し出たが、支部諸兄、諸氏のすすめに従い留任することになった。微力、怠慢さんきの念にかられているのだが、いつそつのお教えとお力添えを乞う。

なお、支部総会会場で福岡日産勤務の島原正孝君外十名の皆さんから「会場費が安すぎる」と言つて特別の寄贈を頂いた。誌上を借りてお礼申し上げる次第。それから九州支部未加入の方は次のところまで御連絡ください。福岡市博多区中州四の十電々公社中州庁舎内、FCR西日本新聞電波担当ニュース・キャスター荒牧博之。電話〇九二・二七一・六七〇〇番。(六回卒・九州支部長 荒牧博之)

奈良支部

- 奈良県支部は左記役員を以て発足しましたのでよろしくお願い申し上げます。
- 支部長 川島 正作 (6)
 - 副支部長 高井 美春 (8)
 - 前田喜代隆 (16)
 - 吉武 治郎 (23)
 - 浦南 至宏 (35)
 - 平尾義之助 (6)
 - 井田 稔 (32)
 - 中島 清正 (6)
 - 木田 秀夫 (8)
 - 椿 一郎 (16)
 - 出井 清治 (16)
 - 出井 清 (8)

同窓会支部役員

東京支部	支部長 服部 友一
東海	加藤 正秋
滋賀	野田 那弘
京都	木下 隆徳
丹有	梶村 文弥
神戸	田中 義一
姫路	永川 仁一
和歌山	松本 旬弘
岡山	大森 喜太志
広島	佐々木 一義
山口	串田 一
高松	矢野 保郎
徳島	谷 俊一郎
高知	横田 憲介
九州	荒牧 博之
石川	石地与四太郎
福井	内田 甫
富山	重松 尚
三重	水上 敏夫
西宮	増田 憲治
大阪市役所支部	村上 静夫
岐阜	丹羽 好輝
奈良	川島 正作

川島 正作 (6)

いあいせい

今回奈良県在住同窓生の熱心な要望により支部が生まれました。県内在住者は旧専門学校当時(一七回)の卒業生五〇名、大学(十八回)の卒業生四五〇名計五〇〇名を算えることが出来ます。今後はこの五〇〇名が交流を新たにたして公私共に有意義な交際をしたいものです。旧専時代は人数も少なく第何回卒といえは低頭も知つた間柄ですが、大学昇格後は人数も多く交友関係もゼミナールの範囲やクラブ関係に限られていた為に卒業後は仕事の面でも不便さがある現況です。

支部の会合等には積極的に出席し、その機会を利用して先輩同期、後輩と交流して、交際の範囲を広められることをおすすめします。大和の地は、日本人の心のふるさとでありますので、卒業後五年、十年、十五年経つてから夫婦そろつてこの地を訪れる全国の同窓生も多いことと存じます。県在住者は大和の各地に散在し、家族数も少なくなり住居に余裕のある者も多くおります。遠慮なく泊つて下さい。在学当時の思出を語り、辛い仕事の面でも有無相通するものがあれば何よりの楽しみですよ。

発足当初、二十数名の会員であった当支部も現在九十数名の大支部と発展している。この記念すべき総会を、去る三月十八日学校より浜本先生、同窓会より世良常任理事をお迎えし北区の大東方において開催したところ、多数の会員が出席、懐旧談の花が咲き学生時代の思い出話や職域での話題などつきることなく和気あいあいのうちに進行、特にこの総会において、空くじなしの福引を行ったが、まことに盛大だった。なお、この総会を毎年楽しみにしておられかかつてご出席されていた、当支部特別会員の中村清次郎先生が、去る八月二十六日忽然と逝去され、われわれ支部会員一同深く悲しみにうちしずんでいる次第である。

大阪市役所支部

ここに、中村先生のご冥福をお祈りするとともに、幽冥界より益々発展する当支部をお見つめくださるよう祈る次第である。(市役所支部長 村上記)



OB監督。コーチにきく

体育会クラブの現況と将来

地方にあって、母校の消息に接するって、とり早い方法は、まず新聞のスポーツ欄を見ることである。それがどんな片隅で、どんな小さな活字でも「経大」という名前が出ているとどんなに、なつかしく、嬉しいものか――

ましてや、それが三号見出しや、四号見出しで優勝とでも出ていようものなら、思わず目頭が熱くなるような感激を憶えるものである。

地方だけではない。地元の大阪にあって、なんと重たい記事で埋めつくされた新聞記事の中で、唯一の清涼剤はスポーツ記事であり、その中で報じられる「経大」の戦績は最大の関心事でもある。ところで、最近の戦績ということになる

と、あまり芳しいものではないようである。見出しの号数も小さくなったようだし、ついで優勝という文字にもおめにかからな

運動クラブの現況

まず、最近の学園での運動クラブの現況はどんなものだろう。かつての昭和商や、女子経専、大阪経専時代の感覚でものを考えられたら、大変な誤りである。この激江紙上でも第三号で各体育会系クラブの細か

い内容を紹介したことがあるが、現在のこの体育会に所属しているクラブの数は全部で二十九部、これにな

お、一つの同好会を擁しているのである。その所属部員もざっと六〇〇名、常に出入りがあるから、その正確な数は定かではない。在学生の定数が、旧高専時代とは雲泥の差で、しかも、スポーツ万能、なんでもやる時代になったのだから、クラブ数が増え、それに所属する学生が増えるのも、また当然のことかも知れ

ない。しかし、これだけの各クラブが、またその部員が、日々グラウンドや体育館、そして海や山で激しい練習に耐え、汗水を流しているという現実、これはまことに素晴らしいという一言につきる。

この全体の流れからすれば、各クラブの勝負や、所属リーグ（一部、二部、三部といった）の問題など、それこそ問題にすることにはならないかも知れないが、しかし、このきびしい練習の終局につながるものは、やはり優勝であり、順位ということになる。

そこで、出席いただいたクラブの戦績といったものを紹介する。まず、硬式野球部では、近畿大学リーグの覇者として、関西六大学リーグの入れ替え戦に出場したのは、もう十年以上も前のこと、最近はその属するリーグでの優勝もむずかしく、やや低迷気味といったところ、近畿大学リーグで優勝しても、近年

では阪神、京滋各大学リーグの覇者と争わねばならず、これに勝ち抜くのは容易なことではない。関西六大学リーグへの道も、相当にけわしいということである。

サッカー部 この春には、大阪商大、大阪体育大学、天理大学、経大の四者で決勝リーグを行い、第三位となった。ここしばらく二、三、四位といったところが続き優勝の味を忘れてから久しいが、若い監督コーチのもとこの夏の合宿で鍛え抜き秋のリーグが楽しみといったところ。

ラグビー部 監督がOBでなく、唯一の現職の教授。まだ優勝の美酒に酔ったことはないが、年々力はつけてきた。昨年は常勝同大の不出場というところもあってチャンスではあったが、天理大学に不覚をとって第二位、いよいよラグビィシーズンも真近か、日々猛練習の連続である。

硬式野球部 この春のリーグは七勝三敗、同率ということで甲南大と二位決定戦をやり、これに敗れて第三位。最近のリーグでの戦績は、いつも二、三位といったところ、かつて二十九年には全国征覇したこともある。その頃から思えば戦力が低下したのだろうか、いずれにしても一度一度全国征覇をしたいもの。

柔道部 歴史は古い、関西学生選手権では、いつもいいところまでいくが優勝の味は知らない。天理大という強剛を倒せるのはいつの日か年実力は上ってきているが、最後のつめというか、最後には駒不足に泣く。ただ個々には優秀な選手もおり、関西の代表選手に選ばれることもしばしばである。

剣道部 長い中断のあと復活した剣道部も、剣道そのものの底辺が広がったこともあって部員にはことか

かない。戦績では、昨年の関西学生連盟秋の団体戦で二位になり、この春の個人戦ではベスト四に一人と、ベスト十六位に一人、三回生と二回生が入った。問題は、全日本で、関西と関東では実力の差があまりにも大きく、これをいかににつめていくか今後の課題である。

卓球部 関西学生卓球連盟の男子加盟校は七〇校、その中において、ほんの一時二部に落ちたことはあったが、ほとんどが一部リーグ。現在はこれの三位といったところ、一位は近大で、これは常勝の日本チャンピオン。この牙城はなかなかに抜きたい。それなりに関西のレベルも高く、全日本では、昨年も今年も九位、最高は五位という時もあったが、それでも現状は精一ぱいよく健闘しているといったところ。

硬式庭球部 現在三部の二位、部員の不足が致命的。それでもオールジャパンには一、二名の参加は欠かさない、乞入部といったところ。

バスケットボール部 戦後は女子経専の時に復活というユニークなクラブ。現在は二部に所属しているが今年是一部入りのチャンス、部員一同意欲に燃えているが、いかんせん部員数が九人。五人おればゲームは出来るが交替選手もいる。怪我や病気が何よりこわい。ただ、少ないなりにチームワークは最高である。

サイクリング部 部員数がサイクリングサッカーで五名、レースの方で八名と、ご多分にもれず部員難、レースの方は、関西学生で三年続けて第四位。このレースの方も東高西低で関西、関東の差は激しく、まだまだ全国レベルまでは程遠いといったところ。

アイススケート部 部員数の不足は言わずもがな、とても団体戦を勝ち抜く戦力はない。しかし、個人的には優秀な選手もいて、個人戦では全日本、全関西等で優勝もし入勝を果した者も何名かいる。ただ、この部のつらいところは練習場がすべて他の借り場、時間に制限等もあって、思うように事が運ばない。ただスケート人口が年々増え、子供の時からスケート靴に親しむ習慣が出てきたことは将来に明るい希望がある。

きびしさに耐えること

出席のOB監督、コーチの大多数から部員数の不足が訴えられた。或る部は、試合にのぞむのにぎりぎりといった部員数しかないという。補充はきかないものなのだろうか。

たしかに、学生数も膨大なものに膨れ上がり、クラブの数そのものも増えているが、在校生が一人弱だとすると六〇〇人前後の部員数は、あまりにも少なすぎるといえないだろうか。これでは一割にも満たない。戦前、戦後を通じて一学年が二、三百人の頃には少くとも二、三割の学生が運動クラブに所属していたと思う。そのことを考えると、む

この原稿は次の人々にお集り願ひ、お話を伺った中からまとめたものです。

- 卓球部 松山 義友(9)
- 柔道部 萩原 市郎(10)
- 硬式野球部 中島 春雄(2)
- 硬式庭球部 高谷 政通(32)
- バスケット部 井上 寛(21)
- サッカー部 浅海 圓弘(32)
- 岩瀬 四郎(32)
- 坂井 弘義(32)
- 的場 政和(38)
- 西垣 和博(40)
- 吉本 雅家(32)
- 安井 正明(39)
- 柴田 秀一(8)
- 体育会本部(現役)富田宏信
- ▽屋形康史▽大西秀明▽千野竜次
- ▽幸村仁司▽関谷宏之▽南河武▽沢賢二
- 同窓会事務局 比企 重(7)
- 編集部長(準硬式野球部) 山中 良夫(19)

しる停滞気味だともいえる。原因はいろいろ考えられるが、その最たるものは、現代の若者一般に見られる根性のなさ、きびしさに耐える姿勢のなさが、端的にあらわれているように思われる。スポーツそのものは、決して下火ではない。むしろスポーツを楽しむ若者の数は圧倒的に増えている。ただ、大学のクラブに所属して、しばらく、鍛えられることは「ごめん」だ、スポーツは耐えることより、むしろ楽しむためにあるのだという考え方が一般的なのである。

大学のクラブに所属しないで、同好の志を集めて、楽しむためのスポーツをやっている学生も事実多い。

こうした学生からかえってくる言葉は、一定の枠の中で強制的にしごかれるのはたまらない。われわれがそれで満足しているのであれば、いいではないかというのである。

しかし、スポーツの持つ良さは、そんな甘っちょろいものではない。遊びではないのである。中年過ぎの年若い人達ならいざ知らず、若者のスポーツなら一定のルールの中で、きびしく自己を見つめ、自らを錬え、自らの限界に挑戦するぐらゐの気概があつていいのではないか。きびしさに耐え、苦しさを乗り越え、或る目標を立て、その目標を達成した時の喜び、これこそ何物にもかえがたいものがあるのではないだろうか。このきびしさに耐え、苦しさを乗り越える姿勢こそ、どんな時

ラグビーの熱戦の中から



代でも、どんな社会生活の中でも必要なものである。それとチームワーク、連帯観である。この世の中は決して一人では生きていけない。よりよき友、よりよき師を得て、その連帯の中で生きていくのである。きびしさ、苦しさの中にこそ真の友は得られると思うのだが。たしかに勉学も必要である。しかし大学の学生生活はそればかりではない。時間的なゆとりは充分すぎるほどある。この学生生活をより豊かに、実り多きものにするためにも、運動クラブへの参加は是非必要と思う。

伝統ということ

こうした数少ない部員を擁しながら、前記の戦績ということになると一面よくやっているということにもなる。しかし、いずれのクラブにしろ、優勝という声がかかれぬのは、またどうしたことだろう。いいところまではいく、でもいつも最後のつめが甘くて涙をのむ——経大の伝統といえ、ここ一番に弱いということではないでしょうか。ある監督が自嘲めいて語った言葉がずっしりと胸にこたえた。オリンピックにのぞむ日本選手団にも、何回かこの言葉はきかされた。ここ一番に

知育、徳育、体育

いい選手を集める方法としては、やはり、全国高校に目を光らせて、スカウトするのが、もっとも手取り早い方法だが、大学の場合プロ選手とは違う。入部に到るまでには、入学試験という絶対の壁があるのである。この難関を突破せずして大学そのものの門をくぐることは出来ない。その入学試験が、これまた年々きびしく、難かしくなってきたのである。

ある。昔の私学には、多かれ少なかれ、推せん入学や、運動選手に対する優遇措置はあつた。しかし、昨今の有名私立大学には、こうしたものをきびしく排除する空気が強く、俗にいう裏口入学いっさいなしという大学が増えてきているのも事実である。たしかに、情実や因縁をいつていたのではきりはない。そうした不明朗なものはいっさい除外して、学力一本、これにしぼるといふものはつきりしていいには違いない。以前の東京のマンモス大学に於いて裏口入学で懐をこやした教職員汚職まがいの事件や、裏口入学に何千万円もの金を積まなければならぬ私立医大の現状を見れば、たしかにそれはいえる。しかし、これ一本では国立の大学と何等変ることはない。私学には私学の良さがあつていい、大学を人間味豊かなものにするためには、頭よさだけですべてを計るのではなく、知育、徳育、体育三つの面から考えてみるべきではないだろうか、少くとも新しい教育の目的は、この三つにあつた筈だ。いまの入試は、あまりにも知育にのみ片寄りすぎている、そのための勉学で、どれだけの生徒が傷つき、精神的にも健康的にも犠牲になつていくのか、こうしたものを是正していくのも大学教育の目的の一つである筈である。

だからといって、裏口入学を認めよといつてはいるのでも、スポーツ選手なら誰れでも入れよなどといつてはいるのでは決してない。徳育、体育という面を重視するならば、スポーツ選手への何等かの配慮はあつていいのではないかといいことである。同窓会誌に、こんな意見が乗るとは問題かも知れない。批判は甘ん

じて受けるが、点数のみにこだわる入試ではなく、大らかな人間を育てるためにも、是非一考あつてしかるべきだと思ふ。国立大学の頭でっかちなきすぎたものを、私立大学は何もまねをする必要はない。国立大学にない、人間味豊かな、バイタリアイのある人間を育てる大学であつてほしいと思ふのだがどうだろうか。

また、同窓生各位にも、この場を

かりてお願いしたいのは、こうしたわれわれの立場をバックアップしていただくことと同時に、当面運動クラブが困っているグラウンドの問題や、合宿場の問題、さらには全国各地の有望新人の発掘、推せんなどお願いしたいと思ふ。先日、或るクラブが何もそのクラブと従前関係のなかつた先輩から合宿場のお世話をいただき大変感激をした話が紹介されたが、地方には

いまや功成り名遂げた大先輩も多いことと思ふ。可愛い後輩のために是非そうした場をつくっていただきたい。さらにいま一つ各クラブとも部費の不足には泣かされている。合宿の前には集団アルバイトが通例となつてはいるが、試合のための遠征や、合宿など必要経費も年々嵩んでいく。これが全国大会への遠征とでもなると同窓会本部からの援助もいただいてはいるが、さらに諸先輩のご

(文責編集部)

このまえ、六月末に会合があつたので大阪に出かけた。たくさんな先輩やいろんな友人に会うことができた。そういった中で何となく「大阪経大」はこのままでいいのかな?といったことをふつと感じた。卒業して三十数年になるのだが、いつまでたつても、やはり学窓の思いは消えることはない。苦言を呈したらしかられるかもしれないが、お許しを乞う。大学がよりよくなつてほしいという気持ち、だれにでもあつてほしいのだ。なせよくならないのだから。みんなそう思いながらただ時間が流れるばかりである。「大学の改革」ということが出てもうだいぶ久しいのだけれども、ここらあたりで現実的に具体的に前向きに進み方をやつてほしいと切に思ふ……。

①入試にしても、毎年同じような問題で、同じような方法で、ただ機械的に終わつてしまつてはいるのだが、他の国立や私立にもない新しい人間的創造性のある方法の入試をすることが考えられないのだろうか。たとえば、すぐれた大学生とは何かを考へ方の前提と

して、個性のある創造力ある学生を採求するため、これまでの職人的な試験方法をやめる。そのかわりに、内申(高校)と面接と論文にとどめる。論文の出題テーマは、「私を語る」とか、「大阪経大生になつたら」といったようなものなど、その受験生の考え方や生き方にふれるためにはいろいろのテーマはあると思ふ。米国の大学入試情況だけでも、ハーバード大

大学の改革ということば

—九州のかたすみから—

六回 荒牧博之

学の入試基準というのは「優秀な学力が必要条件ではあるが、他の要素すなわち性格、人物の資質、各種の特殊能力をみきわめて重要視する」となつてはいる。そして創造力、創作力、感受性、勇気、熱意、活力、人間的あたたかみといったいろいろな大切な品位が期待されてはいる。東大のような国立大の職人的エリートぞろいといった環境では、ハーバードを卒業したリーダーズベルトやケネディは出なかつた。

たのではなからうか。そしてこれはビジョンだが、そのような考え方を時間をかけて積み重ねて、将来は大阪経大の入試の期日を国立と同じ日にするくらい、ほんとうの権威ある大学であつてほしいと願う。

②次に、大学の自治ということだけけれども、自治ということばをよくかみしめてみたい。自治とは一体何なんだろうか。大学の中と脱皮するポイントはこのようにたくさんころがっている。

①入試にしても、毎年同じような問題で、同じような方法で、ただ機械的に終わつてしまつてはいるのだが、他の国立や私立にもない新しい人間的創造性のある方法の入試をすることが考えられないのだろうか。たとえば、すぐれた大学生とは何かを考へ方の前提と

学の入試基準というのは「優秀な学力が必要条件ではあるが、他の要素すなわち性格、人物の資質、各種の特殊能力をみきわめて重要視する」となつてはいる。そして創造力、創作力、感受性、勇気、熱意、活力、人間的あたたかみといったいろいろな大切な品位が期待されてはいる。東大のような国立大の職人的エリートぞろいといった環境では、ハーバードを卒業したリーダーズベルトやケネディは出なかつた。

たのではなからうか。そしてこれはビジョンだが、そのような考え方を時間をかけて積み重ねて、将来は大阪経大の入試の期日を国立と同じ日にするくらい、ほんとうの権威ある大学であつてほしいと願う。

②次に、大学の自治ということだけけれども、自治ということばをよくかみしめてみたい。自治とは一体何なんだろうか。大学の中と

前号から「ゼミの集い」欄を設けましたので大いに活用してください。
 この原稿は現在、大阪経済大学でゼミナールを担当されている先生がたにおたずねしたうちお返事をいただいたものを集録したものです。
 「参考までに、事務局よりゼミ担当の先生におたずねいたしました事項は、
 一、最近ゼミナールOB会を開催されたことがござ

ゼミ短信

いますか。されました時はその世話役に原稿を提出するようお願いして下さい。
 二、先生のご近況につきまして卒業生に一言お知らせ下さい。
 三、その他雑感、随想などございましたらご寄稿下さい。
 (事務局・アイウエオ順)

稲原ゼミ 稲原康雄先生

一、なし。
 二、昭和三十三年以降、四十八年夏までの間、わざわざ私宅へお越し下さったゼミの諸君にお伝えします。孝子は積尼孝順と名を改め、親鸞さんの弟子となりました。袖すり合うも他生の縁、折あらば京都西本願寺へ会いに行つてやうして下さい。もともと、そこには墓はありませんが、彼女の冥想の小路が残っているはずですよ。

三、行く雲に さだめ托さん 秋空にまさ青に染みて 愁い消ゆまで (一九七四・八・一三)

岩井ゼミ 岩井 茂先生

昨昭和四十八年度の小生ゼミへの希望者が意外に多く約六十名に達しました。それを定員の三十名にしぼるのはむづかしく、全員参加を認め、二タ組に分けて開講しました。それが、本年にまで引続いて二タ組のままです。それに講義の「外国為替」の受講者もかなり多く、また大学院の特講やゼミもあり少し負担が多過ぎるので、本年度のゼミの募集を中止しようかと思いましたが、大学側の意向もあり、また参加

希望者もあって、本年度も三十余名の参加を得て、相変わらず国際金融問題について研究しています。例の通り、木曜、金曜の午後開講していただきますので、ゼミの先輩諸君も時々訪ねて下さい。

大槻ゼミ 大槻 弘先生

十年一昔というが卒業して早や九年となります。その間、先生をはじめ、ゼミのメンバーとの交流も年賀状のみに一度も顔を合わすこともなく、なかには卒業以来音信不通となっている友もいる。今夏、社用のため岡山へ出張して来た友と逢いぜひ大槻先生を交え、昔の仲間と集って旧交を温め……と思いつき、約一カ月後有馬温泉にて一堂に会することができた。話が急であつたため社用にて出席できなかった友もいたが、一晚飲み、語り合い、在学当時のコンパそのまま。一味心酔の想いであつた。また、先生のご提案により会の名称を「深水区」とし、来年は卒業後十年目になるため盛大に開くことをきめ、お互いの発展を願ひ、来年の深水区を楽しみに解散した次第です。

磯山 功(三十一回卒)

有難い次第です。

昭和四十九年八月十七日

(誕生日)記

倉辻ゼミ 倉辻平治先生

一、OB会「倉春会第三回年次会」を、七月二十日大阪北でもちました。現役の学生諸君もともに参加、楽しい一夕を過ごしました。

二、目下、ゼミ四回生では「都市問題」、三回生では「マックス・ウェーバーにおける経済と倫理の問題」を、それぞれ研究テーマとして取り上げています。前者は今日の身近な問題ですので比較的取り組みやすいのですが、後者はかなり難問で、ゼミ生諸君も頭を悩ましています。なお四回生ゼミ生数は四十二名、三回生は三十二名です。

三、経大のより一層の発展のためにも、OB諸兄と現役学生諸君との交流を深める機会を、できるだけ多く持ちたいものです。

杉浦ゼミ 杉浦貫一先生

一、最近ゼミナールOB会を催したことはありません。
 二、別に変つたことはありませんがどうやら本年も無事にすこせそです。私も老年となつたせいか、体力の衰えを自覚します。近いうち病院で精密検査してもらおう積りです。同窓生の皆様のご健闘をお祈り申し上げます。おひまな折は時々学校までお訪ね下されば幸いです。

平ゼミ 平 実先生

一、なし
 二、相当な高齢期に達しましたが、心身ともに充実しています。学部講義、ゼミ、大学院授業など、か

なり長時間担当していますがきわめて元気です。

三、ゼミOB諸君がときどき思い出したように便りをくれますが、なかなかいいものです。諸君たちの健康で活躍切にお祈りします。

田中ゼミ 田中健一先生

一、本学に転動してから四十八年度に初めてのゼミ担当なので、残念ながらOB会まだ無し。四十九年三月、二十名卒業したが各地方にも就職散点したためか、幹事役の連携がとれにくいようである。六月下旬、京阪神近在任の有志でコンパを開きたいからと招待電話くれたが、田中が役職上の重要会議の都合で出席できず、流会としてしまった。申し訳なかつた。

二、その後七月中旬夏期休暇に入るや、老生が脳溢血(左半身不随)となり、十六日兵庫県立西宮病院に入院したが、幸い早期の発見・加療で快癒意外に早く、九月四日退院許可されたが、暫くは静養と体力調整訓練を要する。この入院五十日間には、肉体的・精神的に良い経験が得られて、楽しかったこと、おもしろかったこと、尊かしたこと、嬉しく有難く感謝したこと、辛かったこと、なげなかつたこと、悲しかったこと、気味悪かったこと、その他学び勉強になったこと等、数えきれずあつた。

最初は寝台車で整形外科病棟に運びこまれ、数日後に内科病棟四人相部屋に移された。

◎ここ四人相部屋に〇〇氏なる元気な病人あり、おもしろき内容(し瓶のおかわり、なまげ厩当番、看護婦さんへの綽名など)の話上手

門坂ゼミ 門坂正人先生

(近況報告)
 当初、「現代債権法の諸問題」をゼミのテーマにしていましたが、数年来、「現代家族法の諸問題」というテーマに変更してやってきました。今年から債権法を三年生の、家族法を四年生のテーマにしました。今夏は鹿児島県大隅半島で静かに本を読んだり、海に潜ったりしようと思つて出かけましたが、台風襲来ではうほうの体で逃げ帰りました。暇な時には研究室へお立寄り下さい。

喜田ゼミ 喜田義雄先生

わたくしは、来春三月末で本学の内規によって教授会メンバーから退くこととなります。想えば本学へ招かれて教壇にたつたのは昭和二十六年四月でしたから丁度二十四年間、私の人生で最も永く勤めた職場ということとなります。
 その間これという業績も挙げずに終りそうです。大学の教員生活では研究と教育の両面を果たすことが、その職責ということになります。この点まことに恥ずかしい次第で、今更どうにもなりません。後の祭です。振り返つてみて最も楽しいこと

で周辺病人を抱腹絶倒させる。腸捻転になるかとおそれさせられるほどに。
 又、隣の三十才の元気な病人は相撲取のなりそこねで、一三〇キロの体重で金属製ベッドを大きく叩ませて退院する。
 そのあとへ、四十七才の重症高血圧者が入院、この人の毎夜の大騒に安眠妨害されて、遂に八月一日から二人相部屋の一人の退院を待つて転室依頼する。

◎この二人相部屋の隣室に「〇〇〇子」なる中症患者あり、タレント歌手と同名同名なので、カーテンの隅からチラッと覗いたら、丸太ったおばさんでゲッソリ。その〇〇子様に、一回、勘違いして部屋へ入り込まれて、相方びっくり。
 また、この二人相部屋でも、病みてなおスモークキングのみを生甲斐とする人の、深夜一時近く、早晩四時前後に必ずする珍妙な癖での喫煙動作騒音に悩まされる。
 「ね不足にむづかる老やの顔ゆがみ」
 △病院屋上に運動がてら夕涼めばビヤーカーデンの提灯ゆれ見えて羨まし。
 △主治医のリードで手足も振れるみだれるあんよも恥かし嬉し(芸者ワルツの一節をかえて)
 △土もなき病院屋上の片隅に雑草のひとと力強く生く。
 △点滴の長きに汗し観念し
 入院間、徒然なるままの書き流しを座席に供して、老生の近況報告とすると共に、諸君若くとも、「ゼミ」とも自分の健康管理は自分で油断なくされたい」と、自己を顧みて警告

玉置ゼミ 玉置 保先生
 一、最近ゼミナールOB会の開催は

申し上げさせて戴く。

(四九・九・九)

竹林ゼミ 竹林祐吉先生

一、四十八年十二月初めに第三回OB会を開催。出席者約三十名。わざわざ東京からかけつけてくれた人もいて、楽しいひとときを過しました。
 現役三年のゼミ生がお世話するようになっていますので、毎年十一月末頃に恒例的に開催するつもりです。その折には万障お繰合せの上、是非ご出席下さい。尚住所不明のため、案内状が返送されてくるものがあります。お手数ながら勤務先変更の場合など竹林のところまでお知らせ下さい。

二、私の近況。

相変わらずボランティア・チェーンの研究と石仏撮影に精を出しています。どちらもなかなか進展しません。しかしどちらもちここ二、三年のうちに少し形のあるものになりたいと思っています。
 一、開かれることなし。
 二、老来、多年の乱酔にわが五尺の体ガタガタに相成りしも情念だけは消えることなく余を悩ましておる。
 わがゼミナールは嘗ては博愛主義的、民主主義的に多数の若者たちとガヤガヤやっておつたが、この春は二十有余人の精鋭近侍を従えた専制君主として君臨しておる。余は満足じゃ。

玉置ゼミ 玉置 保先生

一、最近ゼミナールOB会の開催は

ごさいせん。
 二、年々数名のOBが研究室や自宅に來訪されていますが、OB会の開催があれば喜んで参加させていただきます。小生相変らずですが京都にお越しの節は是非お立寄り下さい。皆様のご自愛ご活躍をお祈りいたしております。

中川ゼミ 中川 操先生

一、今年は例のオープンハウス・パーティに初めてOBの方が二十名程参加しました。東京へ就職した人達をのぞいて、いつものメンバーがほとんど揃った感じでした。三回生の参加が少ななくて残念でした。
 毎年、七月二十日前後の土曜日、十二月二十日前後の土曜日、二回オープンハウス・パーティを催していますので、ゼミのOBの方達は是非参加して下さい。

二、三月の終わりから四月はじめに、フレンチテュを中心としたロンドン、パリ、ローマを訪れました。習いはじめたばかりのイタリー語が結構通じて、沢山のイタリーの庶民と話し合ってきました。

永野ゼミ 永野 仁先生

一、本年はじめたばかりのゼミナールなので、OB会はまだ開いておりません。
 二、岸和田市史現代編の原稿、俳書年表のカード書き、謡曲索引の原稿点検に、忙しくしております。健康状態はまずまず。卒業生からもう少し手紙がくれば楽しいのになあと思っています。

藤谷ゼミ 藤谷謙二先生

一、最近ゼミナールOB会を開催しております。
 二、小生の近況については、とりたてて記すほどのこともありませんが、最近のインフレ昂進に際し、わが家計の窮迫もさることながら、そして天下国家（特に国と地方の財政危機）のことも大事です

話を（自宅です）

光澤ゼミ 光澤滋明先生

一、OB会について。
 朝夕の風もめっきり秋らしくなってきました。皆様方にはこの不況にもめげずがんばっておられることと思ひます。

松原ゼミ 松原保太郎先生

OB諸兄元氣ですか。小生も元氣です。碌碌ながら機会のある度に現役諸兄と海や山に旅を楽しんで居ります。
 諸兄の御希望に応え、近々OB大会を催したいと思ひます。その節には万障繰り合わせ御出席願ひます。OB幹事は従来どおり林寛君に御願ひして居ります。
 林寛君の住所
 同君 勤務先 大東化学工業所
 （昭和四九年八月）

一、OB会について。
 朝夕の風もめつきり秋らしくなってきました。皆様方にはこの不況にもめげずがんばっておられることと思ひます。

光澤ゼミ 光澤滋明先生

一、OB会について。
 朝夕の風もめつきり秋らしくなってきました。皆様方にはこの不況にもめげずがんばっておられることと思ひます。

光澤ゼミ 光澤滋明先生

一、OB会について。
 朝夕の風もめつきり秋らしくなってきました。皆様方にはこの不況にもめげずがんばっておられることと思ひます。

が、何よりも経大の財政危機を心配しております。

松原ゼミ 松原保太郎先生

OB諸兄元氣ですか。小生も元氣です。碌碌ながら機会のある度に現役諸兄と海や山に旅を楽しんで居ります。
 諸兄の御希望に応え、近々OB大会を催したいと思ひます。その節には万障繰り合わせ御出席願ひます。OB幹事は従来どおり林寛君に御願ひして居ります。
 林寛君の住所
 同君 勤務先 大東化学工業所
 （昭和四九年八月）

光澤ゼミ 光澤滋明先生

一、OB会について。
 朝夕の風もめつきり秋らしくなってきました。皆様方にはこの不況にもめげずがんばっておられることと思ひます。

光澤ゼミ 光澤滋明先生

一、OB会について。
 朝夕の風もめつきり秋らしくなってきました。皆様方にはこの不況にもめげずがんばっておられることと思ひます。

光澤ゼミ 光澤滋明先生

一、OB会について。
 朝夕の風もめつきり秋らしくなってきました。皆様方にはこの不況にもめげずがんばっておられることと思ひます。

光澤ゼミ 光澤滋明先生

一、OB会について。
 朝夕の風もめつきり秋らしくなってきました。皆様方にはこの不況にもめげずがんばっておられることと思ひます。

昨年の十月二十日（土）「おなじみや」で開きましたコンパも、十八名（約六〇％）の参加を得まして、楽しい一時を過ごさせていただきました。卒業後すでに二年半、すでに職場で重要な働き手として皆ががんばっておられます。またよろこばしいことに、五名がこの二年半の間にめでたく御結婚されました。また機会がありましたら、OB会も開催したいと思ひます。

光澤ゼミ 光澤滋明先生

一、近況
 景気冷却の折柄、皆さんは各地で元気に活躍していることと思ひます。小生も相変らず元氣です。十月中旬には慣例のゼミ旅行に参ります。行先として、ハワイ、グアム島、韓国などが選ばれ、慎重に比較検討した結果、いずれも一長一短あり、結局昨年と同様信州へ行くことになりました。

光澤ゼミ 光澤滋明先生

一、近況
 景気冷却の折柄、皆さんは各地で元気に活躍していることと思ひます。小生も相変らず元氣です。十月中旬には慣例のゼミ旅行に参ります。行先として、ハワイ、グアム島、韓国などが選ばれ、慎重に比較検討した結果、いずれも一長一短あり、結局昨年と同様信州へ行くことになりました。

光澤ゼミ 光澤滋明先生

一、近況
 景気冷却の折柄、皆さんは各地で元気に活躍していることと思ひます。小生も相変らず元氣です。十月中旬には慣例のゼミ旅行に参ります。行先として、ハワイ、グアム島、韓国などが選ばれ、慎重に比較検討した結果、いずれも一長一短あり、結局昨年と同様信州へ行くことになりました。

光澤ゼミ 光澤滋明先生

一、近況
 景気冷却の折柄、皆さんは各地で元気に活躍していることと思ひます。小生も相変らず元氣です。十月中旬には慣例のゼミ旅行に参ります。行先として、ハワイ、グアム島、韓国などが選ばれ、慎重に比較検討した結果、いずれも一長一短あり、結局昨年と同様信州へ行くことになりました。

光澤ゼミ 光澤滋明先生

一、近況
 景気冷却の折柄、皆さんは各地で元気に活躍していることと思ひます。小生も相変らず元氣です。十月中旬には慣例のゼミ旅行に参ります。行先として、ハワイ、グアム島、韓国などが選ばれ、慎重に比較検討した結果、いずれも一長一短あり、結局昨年と同様信州へ行くことになりました。

思い出の先生

前号から新しく連載することになった思い出の先生——今回は石川澄先生を予定し原稿も出来上っていました。最近中村清次郎先生が亡くなりました。大阪市役所支部長村上静夫氏から玉稿が寄せられましたので、急変変更をいたしました。

「……ノットをとって、第一編序説、第二章国家。国家の発生は人類の発生とともに悠久の昔に溯る、しかしながら、この国家観念は近世の啓蒙に属するものである。およそ人類の存在するところには必ず社会あり、社会あるところには必ず権力、服従すなわち統治の關係ありてその秩序が維持さ

中村清次郎先生を偲ぶ



同窓会大阪市役所支部長 村上 静夫 (五回卒)

せずよく聴いてくれていました。従いまして気軽に話しかけることができ、どんな相談ごとでも持ち込むことができました。これは全く先生の人の致すところでありましょう。しかし相談をしてもその場で、このようにすべきかどうかとか、このようにすべきであるとか、断定的な意見、考えというものは殆んどのべられなかったように思ひます。話の終りにいつも「世の中というものはなるようにしかならない、くよくよしたり、深刻に考えすぎないようにすることだ」と相談事が相談にならないで先生の許を辞するのが常でありました。従いまして先生と別れてからこんなことを相談すべきでなかったと悔まれ、次からは絶対に相談事は持ち込むまいと思ひながら、又先生に相談事をもち込むことになつていました。先生と話をするだけで気持ちが落ちつき、先生のかざり気もなく裏表のない温かい人格からはとばしる何かに引きつけられるものがあったからだと思ひます。相談事でなく先生こんな事をお願いしますと、はっきりと頼み込みますとたいいてい「よしわかた、何とか努力してみよう」と実に快く引き受けていただきました。

中村先生が同窓会大阪市役所支部特別会員になっていた経緯は、たしか昭和十六年と思ひますが昭和商教授の身を退かれ大阪市役所に就職され大阪市主事に任ぜられ、ほどなく総動員部文化課文化係長兼施設係長に補職され年俸一、七〇〇円を支給せられる市職員になられた次第であります。大阪市役所へ就職の動機は菅野和太郎先生（当時企画部長）のおすすめがあったと風聞しています。長期に亘り大阪市に勤務しておられたならば市役所支部会員に

とって何かと指導をも受けられたのではないかと思ひますが、大東亜戦争の緒戦で吾が国が連戦連勝戦域も次第に拡大し遙か赤道を越え南半球にも及ぶに至り、これら占領地の行政及び民生安定等が軍人のみでは困難な事情となつてきたので軍属としての司政官制度をつくり広く官民から応募者を求められた。先生は将来大阪市の最高幹部にもなるべきコースが開けておりながら大阪市を退き、この司政官にいち早く応募され陸軍司政官として南方はスマトラに派遣され、勇躍故国をあとにされたのであります。

大東亜戦争も日本軍の敗戦でその名も太平洋戦争と変り、先生は勇退むなく故国日本に帰還されたのであります。帰還後暫時静養のあと当時の高槻市長と友人関係の縁もあって市長の招へい断りがたく高槻市役所へ勤務されました。高槻市では総務課長ついで広報室長と高槻市政の中枢部門で活躍されていましたが、先生のご尊父が亡くなられたこともあって、家業の中村銃砲店の経営に直接従事するため高槻市役所を退職されました。南区谷町九丁目銃砲店があり、ときどき店に先生をお尋ねしますと、およそ商人らしくらざるいわゆる武士の商法といった体でお客と応接しておられた様子

を拝見して、先生あれでよくお得意さんを通しませんな、と生意気にもヒヤかしますとニヤリと微笑されて「お上手をいうだけが商売でないよ、駈引なしの商売だから相手も信用してくるんだよ」と実に淡々とした態度でおられました。「君、三時すぎだろウコレでも飲みに行くか」と、机の上の伝票等をバタバタと片付けて外に出る用意をされるのでした。私が恐縮して先生こんな時間に閉店されては商売になりませんよと申し上げると「いやいやかまわん、三時以後の客数なんて知れたものだよ、わしの店を信用して買ひに来るのであれば必ず明日でも来るよ」と先生の面目躍如たるものがありました。

銃砲店を廃業されて暫らくしなす印刷業を始めたという通知をいただきましたので、早速お尋ねしますと社長さんとして印刷業に専念しておられました。旧制専門学校教授から市吏員、陸軍司政官、再度市吏員それから銃砲店主つかれ、変化の多い人生を歩まれたことは余り他に例を見ないのではないかと思ひます。これだけ変

った仕事につかれたのですからその環境によって先生の生活態度、氣持、人生観の持ち方に變化を来たすのが普通であろうと考えますが、一貫して變化なく教職に就かれておられたときの態度そのままであったと思ひます。私が先生を敬愛し先生と長い交誼を続けさせていただいたのも、こんな先生の人のとなりが好きであったからです。

慕い尊敬していた中村先生が昭和四十九年八月二十六日忽然として逝去されたという訃報に接し、一瞬自分の耳を疑いましたが事実であることを知り、悲しみが全身を駆け巡り自然に涙の湧き出てくるのをおさえることが出来ませんでした。
 本年、市役所支部結成二十五周年を迎えるに当りまして、盛大な記念総会を三月十八日に開催する旨を先生にご通知したところ非常にご喜びは是非出席するとのお言葉でしたが、総会当日には健康上の都合でどうしても出席できない会員諸君によるしくというお手紙をいただきましたが、まさかこれが絶筆になるうとは夢にも考えませんでした。
 八月二十八日午後一時～二時葬儀執行ということでございましたが、公務のためどうしても参列出来なため、前日の二十七日に京都のご自宅に伺い、先生の霊前に額つき生前のお札とご冥福をお祈りいたしました。先生がご逝去に幽冥界を異にしておられることがどうしても信じられませんでした。想い出すままに筆を進め、また生来の拙文、思う方分の一も記述することができませんでしたが、故中村清次郎先生を悼む文といたします。
 中村先生の靈安かれとお祈りいたします。 合掌

大阪経済大学刊行物

新制大学昇格時～昭和49年11月現在

澁江の10号にあたり、大阪経済大学で編集及び出版した刊行物を掲げます。なお、ここに掲げた以外に個人の先生方が出版社を通じて発行された刊行物もたくさんありますが、今回は割愛しました。(すでに絶版になり、出版元にも在庫の無い刊行物も含まれています。また、※印のついている刊行物につきましては、本学で販売しています。)

大阪経済大学

研究叢書

- 第1冊 黒正 巖『百姓一揆の研究・続編』 昭和34年刊 ミネルヴァ書房
- 第2冊 菊田太郎『東海道守口宿・守口駅』 昭和34年刊 柳原書店
- 第3冊 倉辻平治『都市の経済社会理論序説』 昭和36年刊 ミネルヴァ書房
- 第4冊 秋本吉郎『風土記の研究』 昭和38年刊 ミネルヴァ書房
- 第5冊 喜田義雄『アメリカ監査論』 昭和43年刊 森山書店
- 第6冊 巡 政民『場の哲学と現代社会学』 昭和43年刊 春秋社

大阪経大会

※大阪経大論集(隔月刊)
創刊号(昭和25年9月)～101号(昭和49年9月)なお、100号記念として総目録を作成した。
購読申込先:大阪経大会事務局(大阪経済大学内)
購読料:年間 500円以上(お申込は現金書留にて願います)
手引シリーズ
№1 学術論文執筆の手引 1972年7月刊
№2 自然科学——一般教育科学を学ぶにあたって 1974年3月刊

日本経済史研究所

経済史文献

- 日本経済史研究所編『経済史文献解題』(年刊)昭和34年版～昭和48年版 日本評論社
- 本庄栄治郎編『日本経済史第五文献』 昭和40年刊 日本評論社
- 本庄栄治郎編『日本経済史第六文献』 昭和44年刊 日本評論社
- 第1冊 菅野和太郎『幕末維新経済史研究』 昭和36年刊 ミネルヴァ書房
- 第2冊 本庄栄治郎『日本経済思想史研究』上巻 昭和41年刊 日本評論社
- 第3冊 本庄栄治郎『日本経済思想史研究』下巻 昭和42年刊 日本評論社
- 第4冊 黒正巖『百姓一揆の研究』正編 昭和46年刊 思文閣
- 第5冊 黒正巖『百姓一揆の研究』続編 昭和46年刊 思文閣

- 第1冊 山田達夫編著『明治前期京都府林政史資料』 昭和49年刊 有斐閣
- 第2冊 黒羽兵治郎編『大坂町奉行所御觸書総目録』 昭和49年刊 清文堂
- 黒羽兵治郎編『近世社会経済史料集』 昭和40年刊 日本経済史研究所
- 日本経済史研究所編『日本経済史研究所蔵書目録』 昭和41年刊 日本経済史研究所
- 日本経済史研究所編『経済と思想』 昭和46年刊 日本経済史研究所

産業経済研究所

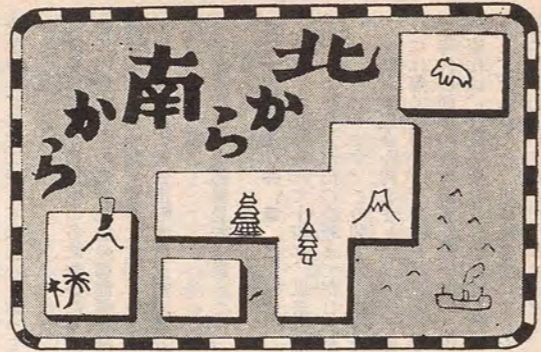
- 第1冊 北里武三『ペイトン・リトルトン会計基準の研究』 昭和37年刊
 - 第2冊 泉谷勝美『中世イタリア簿記史論』 昭和39年刊 森山書店
 - 第3冊 大北文次郎『金融論』 昭和40年刊
- 産業経済に関する文献解題(季刊)
創刊号(昭和49年3月)～第3号(昭和49年9月)

中小企業経営研究

- ※中小企業季報(季刊)
1972年№1(昭和47年3月)～1974年№3(昭和49年10月)
購読申込先:大阪経済大学中小企業経営研究所
購読料:年間 1,000円(お申込は現金書留にて願います。)
- ※経営経済(年刊)
創刊号(昭和39年3月)～第10号(昭和49年3月)
購読申込先——同上
購読料——各号 600～1,100円
- 調査報告(不定期)
- 第1冊 竹林祐吉『大阪周辺におけるスーパーマーケットの発展と3の対策の動向』 昭和38年刊
- 第2冊 高城 寛『郡内機業の生産構造とその変化』 昭和46年刊

経営研究所

- 経営研究所編『経営経済学の基調——池内信行博士追悼論文集』 昭和49年刊 森山書店
 - 研究シリーズ(年刊)
 - 第1冊 浜本 泰『企業の資本構成は正論序説』 昭和48年3月
- 経営研究所報 創刊号(昭和49年3月)



アンケート 短 信 集

諸兄の発展と御健康を祈る。

この原稿は、同窓会会員の皆さんからお寄せいただいたもので、事務局の名簿に
より無さく抽出で選んだ方々です。
といっても、単に何でも結構ですというわけにもまいりませんので、特に①現況
について ②母校同窓会に希望すること ③同窓の友人などのこと ④自由にお
書き下さい。ということアンケート式の質問に対してお寄せいただいた短信です。
もとより、同窓会会員は全国各地にあって、北は北海道から南は沖縄にいたるま
でそれぞれ活躍中ですが、これはその近況です。

第二回 青木梅二

私が在学しておった頃から既に四十年近くも経過しております。当時の校舎は今なお残っておりますが、時々新幹線の内からみる現在の全容をみますと大きく異なる母校をながめて、うれしく思っております。

既に還暦を迎え、三女を嫁がし、孫四人を持つ身となり、多少心身ともに余裕をもてるようになって、この頃つくづく学生時代のことを思い出しては懐しく考へてみます。

私は現在住友グループの関連会社に勤めております。諸先生、同窓の人々に会って色々昔話をしてみたいとも思っています。

第五回 桂田(真後)時雄

今春はからずも、卒業以来初めて同窓会名簿並びに澁江を手にすることができ、なつかしく思い、長い年月の御無沙汰いままらのように痛感し慚愧に耐えられません。

昭和商高は大阪経済大学となり、関西には聞こえた大学に成長した母校の発展を心より喜んでおります。

小生は、戦前織維統制会に就職、九州、福岡の勤務地にて勤みましたが、二十年召集にて海軍に入隊、内地勤務のまま終戦を迎えました。大阪の実家は空襲にあい、戦後は香川県直島の三菱金属工業KKに入社、二十数年勤続、定年退職後は当地にて近くの織物会社に入社、元気に再出発しています。一男二女も社会人となりました。

第四回 松本芳士

四十五年十月から四十八年二月まで心臓障害にて入院。退院後約一カ年の静養にて健康を取りもどし、性来の向う見ずぶりを發揮して、この不況ムードに今度は日本スプリングター株式会社(総合防災、配管、配電)の新会社を設立、総合防備軌道に乗せるべく努力しております。そのうち県内の後輩同窓生を山中温泉にでも集めて、一席ぶどうかと思っております。

第五回 有重 栄

陰ながら菅野先生の御健在を喜び、在学中ラグビーの選手としてともに活躍したそのころの友はいかがと、思いを馳せることしばしばです。同年会が持たれることを期待しています。

五回生の「集い」の開催を望む！
このたび、同窓会編集部の無作為抽出

で指名され、所感の一端を述べる機会を与えられました。

思えば昭和十一年四月入学、同十四年三月卒業、あれから早三十五年、一世紀の三分の一が過ぎ去った。その間、支那事変、大東亜戦争、そして敗戦と、激しい時代の移り変わりとともに、世の中もめまぐるしく変動した。また、それに伴い学校の体制、形態も大きく変わったことも事実である。

学園を去ってから、ほとんど母校を訪ねる機会もないまま現在に至っているが、あのころの上野庄は、新開地で自然環境にも恵まれ、瑞光公園の松の緑も美しく、学校の側を流れる小川も清く澄み、勉強に励む者人にとっては非常によいところであった。あの三カ年の青春は、いままなお脳裏に深ききざみこまれば、学校や恩師、友の顔が目に見え、一年に一回送られてくる校友会誌「澁江」を通じて、学園や同窓生の近況を知ることができ、それだけでは校友の消息をほとんど知る由もない。

卒業してから今日までクラス会も開かれないのが残念で、大阪在住のだから發起人となって五回生の「集い」を、大阪で催してもらいたいと願っているのは私一人ではないと思っている。すでに五十路の坂を越え、白髪多きを加えた友が、それぞれ歩んできた人生航路を、一日語り合うのも、また有意義と考えている。

東京には、幸い級友の藤田誠一君が各方面に元気で活躍しており、ときおり会食をともにし、酒をくみかわしながら、上新庄時代の恩師、友について語り合い青春の日の味をかみしめている。確かに

学生時代の友ほど親しみのあるものはない。

今年も、ゆく河の流れのたとえのとおり、早前半が過ぎた。相変わらず、国際国内的にも激動が続いている。この中にあって、公害や悪性インフレによる狂乱物価に悩まされ、生活は日ごと圧迫されてきているが、何とか人生の後半の並木道を楽しく過していきたいと願っている。

いろいろと身辺雑感の中で学生時代を回想するとき、思い出されるのは母校、恩師であり、級友である。いつの日か友との再会を待望しつつ、終わりに高商時代の校歌

商都の東北澁江に
望みて高くそそり立つ
我らが昭和学園は
産業日本を双肩に

を大きな声で歌いながら、母校の発展、併せて級友、同窓生諸兄姉の御幸福と御健康を祈っております。御上京の機会がありましたらぜひお立ち寄りください。
昭和四十九年七月二十一日記す。

第七回 重松 聖

ときたま、新幹線に乗って窓外から母校の姿を見るとき、昭和商高時代をしのび、澁江の岸辺に足を投げ出し語り合ったのどかな風景、そして校舎の回りも人家少なく、青々としたありしの田園学舎も、いまや近代的な大阪経済大学となり益々発展の一途をたどっているさまを見て、全く隔世の感を感じることも、

今後の発展を祈ってやみません。

第八回 篠原 敏男
前略、大阪経済大学同窓生の皆さま、毎日各分野で御活躍のことと推察し、力強く思っておる次第でございます。

私は、昭和十六年十二月(八回)に卒業いたしましたので、当年五十六歳になりました。現在広島中央郵便局貯金課に勤務しております。何分ともよろしく、いまもお在学当時のクラスメートとの交友で、苦しかったこと、楽しかったこと、いろいろ脳裡を去来するものがございます。本当になつかしく感無量といえましよう。

当地は皆さま御承知だと思いますが、原子爆弾が投下されました。壊滅的な打撃を受けました。私もその一員として、長くても細いけれども、今日ではおかげさまで明け暮れしましたが、今日ではおかげさまでその労が報いられたと申しましようか。かねての念願が叶って昨年小さいながら家を建て、ささやかに暮らしております。家族は三人で、娘っ子が当地の短期大学の二学年に在学中です。私のメイ・ソ・ライフもあとわずかになりましたが日々を有意義に、精力的に頑張る所存です。機会があれば、大阪に立寄った際母校を訪れ、旧懐に接してみたいと思っております。

最後に臨み、同窓生の各位並びに藤原梅田両先生、その他諸先生の御健闘と御多幸を念じつつ筆を置きます。

第二十六回 浅井 章 二

卒業 大阪を離れて十四年、以来郷里の一宮市から大垣市の会社まで毎日勤務いたしております。この間、幾たびか大阪を訪れる機会を持ちましたが、街の変化には驚く次第です。特に私にとって学生時代の面影の数々が姿を失っていく街の変化は、訪阪の楽しみを少なくしていきます。これはただ単に感傷的に古きをなつかしむということではなく、また、

機能的な変化が気に入らないということでもありませんが、人間の主体性を忘れがちな機能的、合理性に対する空虚感かもしれません。

そんなわけで、せめて恩師をはじめ先輩、学友をお訪ねし、大阪との繋がりは大切にしていきたいと思いつつも、ついで時間の制約にとられ、大半が実行できず、また便りも御無沙汰がちで結局はみずから人の心の触れ合いを忘れていたようです。おくれはせながらこの期を機会に、今後こうしたいのではないよう努めていきたいと反省している次第です。最後に、各位の御健勝をお祈りいたします。

第十回 服部 友 一

一、現況及び同窓会のこと。
昭和二十六年に東京へ転勤以来、そのままこちらに住みついております。同窓会東京支部発足以来二十二年間、何らお役にも立っておりませんが、お世話だけさせていたいております。当時(二十七年)約五十名だった支部会員も、現在では約六百名くらいに増えております。今後首都経済人として活躍される同窓生も、益々増加することが予想され、同僚の上昇も考慮すると、将来は支部総会の会場を捜すことも頭痛の種と、嬉しい悲鳴をあげております。支部会員の動きを掌握することが、まず容易なことではないので、東京支部異動の節は、何卒御一報くださるようお願い申し上げます。

二、同期生のこと。

十回生の同期諸兄とあまりお目にかかる機会がありませんが、今春の支部総会で久しぶりに山崎富夫君にお会いしました。また三十年前と変わらぬ着いた困窮晃君の米訪を受け喜んでおります。尾上二郎君は弊社食品事業部の営業(同じビル)でがんばっております。童顔の彼も多少頭髪が薄くなり貫禄十分です。

終りにあたり、諸先生方の御健康と同窓生皆さんの御健康並びに本学の益々の御発展を祈念し、筆を置かしていただきます。

第二十回 吉田 毅

十年ひと昔と言われるが、卒業して二十年になつたのかと気づくこのころです。いつも若くありたいと願う気持ちが歳月を忘れさせたのか、また縁々に追いつく貧乏なしという現実の生活がそうさせたのか、いずれにしろ一つの節を迎えているようです。

卒業以来、田舎での教員生活に入りましたが、自分なりに地方のよさを味わいながら、自分の城をこれからも築きたいと思っております。それにしても思い出されるのは自由な若さにあふれた学生生活高橋時造君(建設物価調査会部長)、平石道夫君(東部光洋ペーパリング部長)、一年下の井坂君(野村証券取締役)、牧田君(東京都庁渉外観光部長)等々、多士済々の顔ぶれとも久しぶりに旧交を暖めることができ、酒の味もまた格別のものがあり、また各分野で大いに活躍している姿は学生時代には想像に難い(失礼ご免)ものであったように思われます。

サッカー部の連中も加頭先輩(一〇回ドッドウエル)、尾上(一九回レナウン課長)、中路(二三回東洋ペニヤ東京営業所長)、黒島(二四回積水化成課長代理)等々元気でやっております。これも中央大学の定期戦がある度に(隔年東京大阪交互でやっております)ヤアヤアといった調子で、その夜は随行員共々銀座か八丁堀でオダをあけております。どうぞ同窓の皆様、八丁堀の近くにお越しの節は漁火(いさりび)へ是非どうぞ。電話は六時頃迄は事務所五三三三三六一(代)、それ以降は五五一九二七七(代)に多分いるはずですので、どうぞ御利用の程。

第十回 大谷 久

不安、緊張、耐乏のドサクサの中で卒業、卒業式のと伊勢に一泊旅行した四名、田中裕、富永敏輔、横内武之、加藤正秋の諸氏がそろってそれぞれ活躍中はうれしい。

旧満洲で入隊するまでの一年数カ月は思い出も多い。そのころ池田安君が奉天(瀋陽)にいた。高田莊介君がいま東京で近くにいます。終戦前後のころ、彼らから受けた友情と厚意はありがたかった。肝に銘じて忘れぬ。

二十一年秋、返して引き揚げてから、就職と病気を繰り返して、二十八年から現在のところ落ちついた。卒業後三十年余、いまだ不安と激動の中にさらされています。これからの人生の本番か。お互い公私ともに荷物の重くなる時期にさしかかります。よき人生を過せるよう、諸兄の御健闘を祈ります。

第十二回 長岡 裕

輪四十半ばにしてやうと永住の住まいを定めることができませんでした。しかし、現在は松山郊外で若い人たちとともに寮生活をしております。俗に言う「松チヨン」とかいう奴です。「小人閑居して不善を為さず」という人生哲学を作ってみたいと思っております。

先生方はじめ皆様の御健康と御活躍、お祈り申し上げます。

第十四回 榎山(宮本) 和子

一昨日、子供たちのピアノ発表会に混って私も演奏に加わり、片や先生のまねらしいことをしながら、片や私より十歳も若い方の弟子という中年のおばさんになつてしまいました。

不経済専門学校卒業と主人に言われましたが、別に破産することもなく、小生の男子と三人暮らしの毎日です。これまでに手がけたことといえば、パイオリン、声楽、ピアノ、並に俳句、観相……、およそ経済学とはほど遠いもの。戦争がなければこんな同窓生は得られ

でした。困難にぶつかったときもいつもこれが一つの支えとなっています。諸先生方のかわらぬ御健勝と学園の発展を心から祈ります。

第二十回 前田 行信

卒業以来二十年が過ぎました。いまこのペンを走らせながら大学時代のことをいろいろと思ひ出しています。母校並びに同窓会の年々の発展、心からお喜びいたしております。特に、新幹線の窓越しに見える母校の偉容はその感を強くします。大ぜいの生徒を教え、卒業させていく中で、教育の深さをつくつくと感じております。同窓諸氏の御活躍、御健康をお祈りいたします。

なお、第三十四回卒業の立花福太郎氏も、同じ職場で大いに張り切っております。

第二十一回 竹島 寛 之

毎年お届けいただいている「瀬江」の「北から南から」、先輩、友人、後輩各位の御活躍の様子うかがえて、楽しく読ましていただいておりますが、今回はからずも、小生に投稿の機会が与えられ、ペンをとった次第です。

卒業後、郷里にて教職に着き二十年を経ました。昨今、教育問題は政治的な争点となり関心を集めておりますが、特に教師像について「聖職者」とか、「専門職だ」、いや「労働者だ」と論争されています。教員組合の一員として、「勤務評定闘争」「安保闘争」「学力テスト闘争」など、就職初期の組合運動から今日までの教壇生活の中で、

教師として国民の負託にこたえ、教育実践を通じて民主教育を推進し、労働者として、みずからの生活と権利を守るため戦闘的にたたかひ、民主主義者の統一のためにたたかひます。一という高知高教組の基本原則は、小生の今日をささえ、はげましてくれて

なかつたでしょうとところの私たち十四期の大方の女性には、その後それぞれの蝶に変身、分散して安住の地を得ているようです。

今年のクラス会に私は欠席しましたので、その様子を伝えられなくて残念ですが、経専の卒業生は比較的中年太りの具合が少ないようです。とはいえこの数年、同期の皆さまそれぞれに格幅の備わったこと、私ひとりおそい初産に続く育児のせい、または胃下垂のせい、七キロ、どなたかこれより細い方はお申し越し下さると幸いです。

そうそう卒業生で胃下垂でお悩みの方、いらっしゃるでしょうか、これは食後三、四十分間、ひと仕事してからでもよろしいから、とにかく胃のものを腸へ運ぶために右下に寝るのです。間食はよろしからず、懇切な医師の説明で私はこれを実行、小さいながら健康で安泰の日を送っています。

まずは近況御報告まで

第十八回 細井 幸喜

新入社員を見ての雑感
物価は七月には前月比二割高と、またまた暴騰の道をたどりそうです。一方、きびしい金融引き締め下、コストアップの影響を受けた企業は、製品の値上げなしに存続を計ることは難しく、企業に要請される生産性の向上のためには、人間の高性能化以外の道はない状況です。教育訓練は企業活動の起点であります。そのような時勢で学校教育の目的が社会への順応性の育成であれば、いま企業で必要とする高性能の働きができる人材の育成が必要ではないだろうか。形式的な人材でなく実質的な人材、たとえば経営分折を行なう人は簿記も十分会得しているという人材の育成が必要でなからうか。

第十九回 今田 健吉

前略、このたび何か意見あるいは希望を書けとのお言葉をいただき、長い間の同窓各位の御活躍をお祈りします。

第二十一回 三浦 猛

私は或大学を卒業後、経大の近くに就職しまして、一年後縁あって二学部二年の第一期生に編入しました。それを機会に社内宿借りをやめ、経大の近くのいわば経大の寮的なアパートに移りました。二十人あまりの同輩と起居をともにし、二十年近い今日でも当時の面々の若い気持がわくわくした顔を思い浮かべることが出来ます。就中、工藤、高林両君の親友を得たことは学校での勉強以上にかけがえのない収穫だったと思います。両君とも石川県小松市の出身で、人に愛される人徳に加え不屈の闘志により、確固たる地歩を築いています。これは友人としての誇りだけでなく、母校のホープとして賞讃に値する活躍だと信じ、この紙面をお借りして工藤君の近況をお知らせします。

大宝電機の常務取締役を足場に、アサヒテレフオンサービス及び工藤商事の代表取締役社長、今年四月初めには加賀観光株式会社を設立、その手始めに堺筋長堀橋北に割烹「加賀」を開店、たいへんな盛況でございます。御来阪の節にはぜひお立ち寄りの上、激励の一言でもかけてやっていただければ幸甚に思います。

第二十一回 大島 正 俊

昭和三十年、卒業してすぐ上京、早いもので十九年間東京生活が続いております。その間一度も母校に行かず、東京支部同窓会も二度ほど出た私に突然のハガキノ戸惑いあるのみ。
このような私にも、ときおり後輩が訪ねてきたり、話をしていたお客が同窓生、いとこの旦那が後輩等、世の中狭いものと思ひます。
わが社のような小さな商社でも、狂乱物価の波に押されアップアップの状態、商売を海外に求めて、ブラジル、メキシ

御無沙汰をおわびするつもりで思いつまま筆をとりました。
振り返れば早いもので、卒業以来二十余年の経過、いまあらためて月日の流れに驚いております。お世話をおかけした諸先生方にも長い間の御無音に、まことに申しわけなく思っている次第です。またその後同窓生の皆さんがいかにしておられるのか、在学中のことを想起すれば実になつかしいものがあります。それぞれ各分野で御活躍のことと申します。
私も現在、大阪府下のある衛星都市に勤務し、地方公務員として地方行政の一端に取り組んでおります。学生時代からの経験は、複雑多岐を極める地方の行政にも有意義に生かせるものがあり、その点非常に感謝いたしております。自分たちの住む町の発展を願ひ、将来を計画し、展望することは考えるだけでも楽しいことです。今後とも大いに精進し、努力し、頑張つてまいりたいと思っております。

漁火(いさりび)に是非

西山 昭香(十六回)

私は昭和二十五年にサッカー部を卒業した西山です。授業にほとんど出ませんでしたが、無事卒業し岩谷産業株式会社就職し、在阪の頃は母校にちよくよく出かけて、サッカー部員からアンタッチャブルの異名を頂戴し、親しまれ、慕われ、昭和二十七年から三年間経大サッカー部の監督の大役を引き受け、関西一部リーグで優勝は逸しました。が、二位でパトナッチャでできたのは、選手の中にヤンマーで活躍した木村文治君他優秀なプレイヤーに恵まれたお陰と思っております。

現在、東京は八丁堀でガスプラントの設計施工と飲食店(日本料理と西洋料理と)と(四店舗)を経営しております。同窓会東京支部長として格別のお世話になっている服部様(一〇回武田薬品工業(株)部長)の知遇を得て大いに繁昌しております。同級でハンドボールの名手の飯島君(高砂熱学経理部長)、田中富三君(日立金属(株)営業部長)、吉田卓司君(設計事務所)、

コ、東南アジアと飛び回っています。今後ともよろしく御指導のほどを。

第二十一回 青木平吉

平素の御無沙汰を深くおわびいたします。昭和三十年卒業以来、住所を移転すること、これまでに二回。四十七年十月から現住所で生活をしています。就職した動先に当時同窓会員のいなかった天理市にも、私の知るころでは二名の後輩が勤めていました。現在、公共用水域の水質汚濁防止のキーマンといわれる下水道建設関係の職にあり、住みよい郷土の都市づくりのためがんばっています。

末筆ながら、母校の繁栄と同窓生各位のますます御活躍を切にお祈りいたします。

第二十四回 徳永 允

同窓会の皆さま御無沙汰しております。学生時代のときがなつかしく感じられます。昭和三十一年の秋、僕の四回生のときだと思いますが、関西学生サッカーリーグ戦、経大と関西学院大学の試合を西宮球場に応援にいきました。経大が勝ち、優勝したことを記憶しています。年月の過ぎるのは早いもので、卒業して十六年経過しました。昨年、同期生のものと四名ほど別々に会いました。職業はさまざまですが立派に活躍しておられます。僕は経大を卒業して現在まで無意味に過ごしてきました。会社の倒産があり、去年会社を退職しました。現在、再出発のつもりで経営学校に通っています。どうかよろしくお願いたします。

第二十四回 小林 正明

現在、日本生命系列大阪商業信用組合天王寺支店長として勤務しております。このたび御丁寧な御連絡をいただき、日ごろの御無沙汰をわびながら在学時代をなつかしんでおります。戦後荒廃間もな

い昭和二十二年四月、女子経専より転換した大阪経専に入學、多数の女性先輩との共学、黒正校長復帰、大学昇格問題等、激動の苦しくなつかしい時代を経、病を得て休、退學、再入學、昭和三十三年三月大學を卒業しました。この間、古き時代の先生、先輩、故人にも一方ならぬお世話になりましたが、今日生きるを喜び、母校、同窓会のますますの御発展をお祈りいたします。

第二十五回 中尾 則房

いつもりっぱな同窓会誌を御送付くださいましてありがとうございます。昨年は異人会も開催され、大学の連絡も格別なものになりました。へん喜んでおります。また、母校を卒業し就職についておる者が、先輩後輩を含めて七名にもなり、小さい県ながら意を強くした次第です。また、教職員の名簿をいただき厚くお礼を申し上げます。

追伸 クラブ活動の状況もマスコミに上にお知らせください。

第二十六回 矢田 正己

我々、昭和三十五年卒業の年代は、実社会に一番少ないときで、同窓生と会う機会は数年前から比べれば少なくなっているが、私の勤務先(大阪西川)には経大卒業生が二十数名、毎日がんばっており、毎年一度は一同集まって、日々の苦勞を忘れて在学時代の楽しかった日々の思い出に花を咲かせて、楽しいひとときを過ごしております。

第二十八回 竹内 忠雄

一、現況、大阪市東区京橋一丁目OM M内18階階オリエンタル、婦人服関係の会社で営業企画課長をつとめております

第三十三回 中村 孝行

前略、無事卒業させてもらってから、早いものでもう八年目に入っております。経済学部というより、体育会本部の卒業と言ったほうが通りがよく、試験以外は勉強もせずに暴れ回っていた当時のことがなつかしく思い出されます。

同期のメンバーも、売れ残り朝田君(当時副部長)と私だけになり、ときどき会っては相も変わらず安酒を飲み歩いている毎日です。学校へも最近ほとんど行けず申しわけないことですが、新聞等でスポーツの戦績をながめながら、一喜一憂している次第です。

第三十三回 服部 宗彦

私、昭和四十二年卒業以来、首都高速道路公団(用地部)に勤務しております。したが、昨年一月一日付をもって本州四国連絡橋公団第三建設局(尾道〜今治ルート担当)に転勤し、こども用地補償の業務にたずさわっております。はなやかな建設工事に隠れた陰の仕事、それが用地の仕事です。同窓諸氏の中で私と同じ仕事をしておられる方があれば、ぜひおたよりください。

最後に貴重な紙面を借りて一言、重江、福田、池内、前神、宮脇、丸濱、前川、村田、みんな元気でやっております。

第三十五回 谷本 一武

先輩、後輩の皆さまいかがお過ごしですか。母校を出て早五年、私もいまでは結婚して二児の父となり、せわしく、うるさく、ETC……と、学生のころの四年間をなつかしく、もう一度あのよう自由な意見を言い、自由行動し、自由なる時間を持てる生活に帰れないものかという思う毎日です。またこのたびのインフレの波は、私どものような零細

先生 原稿をおよせ下さい

「澱江」はわれわれ同窓生の機関誌です。みなさんのご協力を得て今後ますます立派なものにしていきたく存じます。つきましては、みなさま方の原稿を心からのぞんでいきます。随想ももちろん結構ですし、短歌、俳句、川柳、なんでも結構です。遠慮なさらずどしどし編集部までおよせ下さい。

二、日々忙しい毎日を通してありますが、同窓会にもなかなか出席できません。ですから「澱江」はありがたく読ませていただいております。

三、友人等についての近況については何も知りません。四、雑感ですが、校名を高める上においても、情報書、新聞等の活用による生徒募集方法の活用をいつも考えますが、どうでしょう。

第二十八回 友沢 寛

願ひますと卒業して十二年の歳月が過ぎ去ってしまいました。十二年の歳月と言つても実感としては、最近卒業したような気持ちがあります。

先輩諸兄におかれましては、それぞれの分野で御活躍されていること御喜び申し上げます。私も学校を卒業して松山市役所に就職し、現在は福祉事務所で行政の一部分を担当しています。学校を卒業して以来、一度も母校を訪問したことはなく、母校の近くを新幹線が通つていて、十年前とは大きく変貌していることと想像しております。

約五年以前に、在校生の幹事により松山市周辺に在任する大阪経大の同窓会を開催し、二十名くらいが出席し、今後とも継続して一年に一度は開催する予定になっていましたが、その後は開催がないため、この記事を読まれた方は連絡してください。

な商売にまで及び、まことにひどい年を迎えたものと感じております。

鳥取という片田舎にいますとなかなか上阪もできず、母校とその後の様子も日ごろ気にかかるところですが……特にクラブ、大樟祭、そしてゼミの仲間、一度それぞれの関係の友達と会う機会を持ち、ゆつくり語つてみたいものです。

第三十五回 片岡 秀夫

「澱江」という本は以前読んだことがありますが。最近見なくなったナ、と思つていたところ今度が十号とのこと。苦情を申し上げたい。何年かかって十号なのか。編集部は「何」を編集しているのですか。黙んでしまつてはいるのでは……。事情に疎い者のそんな批判はあたらないとおつしやるのもそれはない。言ひ分もあつて「そんなオイラに誰がした」。会費を取つても情報を流してくださいナ。大学は一部の人のだけのサロンではないはず。知りがたくなっていく者も多いです。鳥取県支部をつくるという声もあり、本県在住の卒業生をリストアップしてお送りいただけたら幸いです。

第三十五回 相田 通行

一、卒業後五年間広島支店で勤務、今年二月の転勤で故郷愛媛県松山市の新設店舗に勤務しています。二、母校の発展を祈ります。同窓会はそのための一助となりOBの親睦の場を数多く提供してほしい。三、第五期寮友会の方々、お元気ですか。

スポーツシーズンになると母校の野球部、サッカー部等の活躍を新聞紙上で見ますが、われわれ地方に在任しているものにとつては、母校の状況を知る方法は「澱江」を通じてであります。最近の諸物価高騰からいられると困難が多いとは存じますが、今後とも「澱江」の発行を続けていくことをお願いいたします。

第三十回 吉岡 信治

「世の批判に反論する」昨年の経済界の恐ろしくなりましたが、いまだ状況を呈するに至らず、特にわれわれ食品界に従事するものにとつて世論のいう「もうけ過ぎ」等にはほど遠く、また参議院選挙の金権選挙に還元できる「金」というものに対して非常にうらやましい感じがする。それだけ使える金があれば、消費者に対してもつと安価な商品を提供できるものと思うが、これらの金をいかにして還元できるかが問題と思われる。

第三十回 神田 博

卒業してひと昔、ちょうど十年となりました。その間、同窓会に關しては何の活動もせず、二回ほど同窓会に出席したくらいで、その日を過ぎてきました。こんな私に同窓会についての原稿依頼が飛び込んできて、正直のところ面くらつております。そこで少し内容は異なり

四十四年度卒園田ゼミの方、お変わりありませんか。

広島県人会の方、長い間お世話になりました。坊ちゃんて知られた松山へ寄られたらTELEしてください。電話〇八九九一二一〇七四一(ひめぎん中央通支店内)

第三十六回 立花 福太郎

同窓の諸兄におかれましては、益々御清栄のこととお喜び申し上げます。私は卒業後四年目が過ぎたところで、「澱江」への投稿二度目という幸運をいただきました。そこで紙面をお借りいたしまして一言お願いを申し上げます。私は中学の一教師でございますが、大学で学びましたことを職業に活用したたく、「税理士」を希望いたしております。諸兄の中で「会計事務所」をお持ちの方、見習職でも結構ですので、採用、御指導をお願いいたします。厚顔無恥で失礼とは存じますが、御一報くださいませ。

第三十六回 大平 房治朗

卒業して四年、家業にすぐ従事して夢中で仕事をし、あつと言つ間に過ぎた四年でした。いま思うと、とにかく学生時代が一番楽しく、気楽に、のんびりと、わずらわされずに過した時代でした。そして、学生時代にもつとといういなことをやっとなつておりました。同窓会も仕事の都合でなかなか行けず残念です。

第三十七回 米田(向日) 喜美子

四十六年三月に卒業して、いま大阪を離れて岐阜県へ新居を構えています。同窓生と結婚して早一年半がたちます。二

幸い、WV部創立以来、これという大きな事故もなく、OB会も年々会員が増大し、益々の発展が見込まれています。で、われわれ会員一同、これからも大阪経済大学卒業生としての自覚をもって、おのおの分野で一先懸命がんばりたいと思っております。

OB会の正式名称は、大阪経済大学ワンダーフォーゲル部OB会です。創立以来十二年。会員数は百余名の多きに至りました。本部は大阪に置き、支部として関東、中国の二支部が置かれています。会員は北海道、九州及び日本全国に散らばつていますが、まだ支部としての形態はとれていません。

活動状況は、年一回の総会(役員改選その他)、年一回の合宿(山、海等へ二三泊で行ないます。二本柱として、随時例会や役員会を開いて、お互いの活躍を喜び、情報交換や次回活動予定等を決定します。OB自体の活動は以上のようなものですが、WV現役部との交流を深めるため、OB会より現役部と一、現役よりOB連絡委員一名を役員の中に置き、両者の間が疎遠になるのを防いでいます。OB総会には現役三役を招待し、活動状況、活動予定等を聞き、意見交換を行ないます。また現役主催の行事にはできるだけ都合をつけて参加、見送り等を行ないます。交流を深めるようOB会も努めております。一昨年の十周年総会は、卒業生の経営する「山中荘」で泊まり込みで盛大に行なわれました。また、昨年のOB合宿は、中央アルプス、駒ヶ岳を二泊三日で行なわれました。

卒業以来、厳しい社会生活に追われ、ついつい一日一日を何げなく過ごし、そのまま年をとっていきそうな毎日ですが、日ごろ御無沙汰しているのかつての山仲間が、総会や合宿で顔を合わせ、学生時代をなつかしみ、無事を喜び、日々のことを話し合い、また母校の情報を聞き、その発展ぶりに驚いたり、恩師の御活躍をよそながら喜んだりできるのも、OB会があればこそと思っております。

OB会があればこそと思っております。幸い、WV部創立以来、これという大きな事故もなく、OB会も年々会員が増大し、益々の発展が見込まれています。で、われわれ会員一同、これからも大阪経済大学卒業生としての自覚をもって、おのおの分野で一先懸命がんばりたいと思っております。

人を取りもった大阪経大。いまでも二人でゼミの事々々話題にのぼります。私たちが経済学部は十人の女子が肩を並べていましたが、いま彼女たちは幸せに暮らしておられるのでしょうか。転勤の多い主人の仕事ですので、これから行く先々でお会いできましたら旧友を確めあいたいですネ。

遠くに住んでおりますので、同窓会へはなかなか参加できませんが、機会を見つけて参加したいと思っております。

第三十七回 鳥田(藤井)恵子

卒業の年の秋、結婚し東京にまいりました。現在の会社に務めて二年半、小さな会社ですが、それだけに全部のしかかかってきてやがていはいはあります。経理課長と私と二名で、経理、庶務全般をやっております。そしてあたりまえのように、やはりもっと勉強しておくべきだったと思っております。

同窓生名簿等を送りいただきたい。同窓生とのつき合いは、私の諸事情により皆無です。でもとてもなつかしいと思っております。「瀬江」発行されましたらぜひお送りください。

第三十八回 小山(高原)純子

オバQのQ組のお友だち、園田ゼミナールの方々、そして同窓生の皆様、すっかり御無沙汰いたしました。私が、いかがお過ごしでしょうか。私は六年間住み慣れた大阪を離れ、この四月より千葉に住んでおります。最近、庭の小さな池に金魚と鯉を飼い始めました。主人は、「早く大きくして鯉料理をして食べよう。」私は、「いえ、いえ、鯉の大会に出場させるんだから。」と言いつつ、早く大きくならないものかと毎日餌を与えておりますが、いっこうに……。大都會を離れ静かな住宅街でのごんびり、物価も忘れ、主人と二人、鯉に夢中になっておるきょうこのごろです。

さて、毎年同窓会の案内状をいただきながら失礼をいたしております。来年には同窓会名簿も発行されるか……。たいへん楽しみにしております。

最後になりましたが、編集部の皆様の御健康と「瀬江」の発展をお祈り申し上げます。

第三十八回 吉川 英夫

前略 新潟へ戻って早二年余になりました。家の仕事(金物卸商)に入って連日多忙の連続です。昨年までは仕入関係の仕事が主でしたが、今年からは販売関係の部門に回され、北は北海道、南は九州まで、一カ月のうち半分は出張の状態です。

第三十九回 飯沼 善英

卒業してから早二年。まだ学生気分が完全に抜けきれないまま、毎日公社職員として仕事に励んでおります。

同窓生時代を、いま思い出してもクラブオンリーでした。将棋部に所属していまごろになって経大で過ごした四年間が、折に触れなつかしく思い出されます。この四月からは第一販売部主任の肩書きも付き、ますます多忙になりつつあります。大学時代の友人とは電話、手紙などを通して情報を交換しておりますが卒業以来御無沙汰をしている同窓生(住所がわからないため)も多数おられますので、同窓会名簿の作成を一日も早くお願いいたします。

わがQ組の杜氏、吉岡氏は現在渡米中のごと、彼らもがんばっているようです。同窓生諸氏の中で、新潟へ来られる機会がありましたら、ぜひお立ち寄りください。在学中の友人等、ぜひ御無沙汰していただきます。一度手紙でもください。とりとめなく書いてきましたが、今後の御活躍を期待します。

した。度重なる試合の数々。先輩、後輩、同輩の顔々、一つ一つの思い出が本当になつかしいです。ときどき学校へ行っては先輩と楽しいときを過ごしています。

第三十九回 高見 利典

卒業後一年を過ぎ、裁判所の仕事にもやっとなつかしいです。刑事から民事、家事事件と、一とおりの仕事をこなせるようになり、目指すは裁判官にと頑張っています。

仕事をやっていて思うのは、あまりにも皆さんが裁判所を敬遠なさることです。来れないのにこしたことはないのですが、家事相談という家族、親族、その他家庭に関する問題について悩みを持つ人達の相談に応じ、審判、調停の手続きを教え、または質問に応じて法律問題を抽象的に説明して助言を与える無料サービス事務を、もっと利用したらと思うことです。

福井県内在任の同窓会員の福井地方裁の高見をいつでも利用してください。電話でも結構です。相談のりまます。

北から南から



▽本年は、年当初から、郵便料の値上げがうわさされ、十月一日頃には実施されるのではないかと。という事であった。

▽ために原稿集めも早くからはじめ九月末日発送ということで張り切っていた。

▽ところが、値上げは見送られて、来年ということ、途端にガツクリ発行も十月二十五日ということになってしまった。ために多少原稿

に日時の遅れが出たことを深くお詫びします。

▽この編集が終われば、次は名簿の編集ということになるが、この方は従来からの編集部の責任から、別途委員会をつくって作製にあたることになった。

▽同窓生の数もいまや二万を軽くオーバー、名簿の厚さも、従来のもので倍々らしいものになる。とてもことに少い編集部員の手には負えるものではない。専任の、それもベテランを入れてかからねばならないと思うが、同窓生で心あ

る方がおられれば、どうか名のり出でいただきたいと思う。

▽なお、より確実に正確なものにするために、従来までの不明者については、より徹底的に調査することになっておる。今後お尋ねする不明者の中から、どんなことでも結構です。それが住所だけ。電話番号だけ、知っているであろう友人名でも結構です。是非々々お知らせ下さい。

▽最後に玉稿お寄せいただいた方々に心からお礼申し上げます。(松本記)

学歌

作詞 故秋本吉郎(元本学教授)
作曲 柴田南雄(東京芸術大学教授)

逍遙歌

作詩 中村行男
作曲 松川圭一

一 大淀の

水は春ゆく ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑がしみる
この若さ
希望は明るい 蒼空かけて
永遠の青春 みなぎる学園
大阪 大阪経済大学

二 大樟の

蔭は裕々 夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負ひもちて
諸汗に 確つかと植えた
繁れ自由の 融和の象徴
大阪 大阪経済大学

三 そびえたつ

白亜の殿堂 秋空高い
澄んだ心に 鐘なりわたる
晴れ空だ
ひらく真理の 扉につどふ
面はかがやく 求理の学園
大阪 大阪経済大学

四 濛標

世界の商都の 入船出般
水先みちびく 経済実践
前途はるか
氷る潮路も 乗切る気力だ
自由で揺がぬ 自立立つ学園
大阪 大阪経済大学

(一) 此処城北に迎えたる

紺碧淀の春の夢
惜春の賦のたよえは
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

(五) 乱る金剛枯風の

叫ぶ野嵐粉吹雪
緑定石に佇ずめば
無言に教うる朔風の
肌にしびしき鞭なれど
懐古楽しや語り草

(二) 水やにこれる人の世に

真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変わらまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜みて励め我が春を

(六) 霜ふみ通うこの朝

暮る、易きやこの夕
真冬寒波の寄せ来てや
淡き光のいざないに
汝が故郷を偲ぶれば
鐘の音さびし瑞光寺

(三) 集いの庭を共にせし

我が学舎の乙女子は
愁の時は過ぎ去りて
理想の遠地にひたぶるに
幸を求めて馳けるとや
感激新たな此の曲に

(七) 小鳥が森に歌うとも

小羊野辺にたわむとも
さすらい旅の此の世には
花びら風に待たずして
春や心の乙女子は
はかなき恋に泣くとかや

(四) 虫の音すだく秋来れば

小川こよなくさびた、え
こち吹く風に花なびき
自然したいて逍遙の
尋ぬる途は遠くして
薙露人生はかなしや

(八) 想いめぐりて尽きぬ時

緑が原に人訪えば
落葉か、れる語らいに
愁憂の声今はなく
新たに目醒むる者のみの
微笑は花に映ずなり



大阪経済大学同窓会誌

NO.10